

# 都会の人たち

31259  
M014  
資料室



私たちの生活(二)

50025

教科書文庫

5
300
34-1948
200030
1654

Kodak Gray Scale

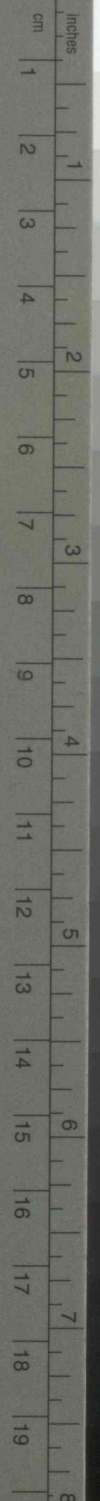
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



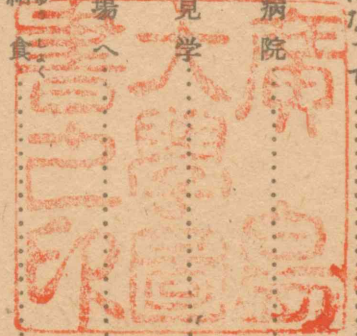
© Kodak, 2007 TM: Kodak



375-9  
M014

資料室

一、私の家	一	九、街頭録書	九
二、図書委員になって	二	一〇、銀行の仕事	一〇
三、大きな病院	三	一一、都市の気分	一一
四、工場の見学	四	一二、お米の列車	一二
五、紡績工場へ	五	一三、百貨店での買物	一三
六、学校給食	六	一四、これからの都市	一四
七、ビルディングのしらべ	七	(附) 教師及び父兄の方へ	一四
八、運動会	八	「私たちの生活」総索引	一



一、私の家

月 日

じゅん子



私の家は、ちよつとふしぎな家です。おじさんはおとうさんの家だといわれるし、おとうさんは、おじさんの家を借りているのだといわれるのです。

もともとこの家は、今から二〇年ほどまえ、まだこのへんがいなかであまり家のたつていなかったところに、おじさんがとなりの家といつしよに買われたものです。そのときおとうさんが自分で買いたいといわれたのに、おじさんが「そんなによい家ではないから、別の家を買いなさい。それまでは自由に使いなさい。」といって、とめられたのです。となりの家はへや数も多く、庭もかなり廣くてよい家です。おじさんたちが疎開したあと、ある会社の宿舍として貸したのですが、終戦後もそのままになっています。それで、疎開から帰ってきたおじさんたちは、私たちの家にいつしよに住んでいられるのです。となりの家は会社の宿舍なので、人数もふえたり、へつたりしていますが、私たち

の家よりゆつくりしているようです。

よその人の話をきくと、家のことでは、ずいぶん争いが多いようです。友だちや親類がけんかをしている例はたくさんあります。弟さんがいさんの家を借りていながら、

にいさんたちを同居させないという例もきました。

警察に争いをもってくる人も多いそうです。

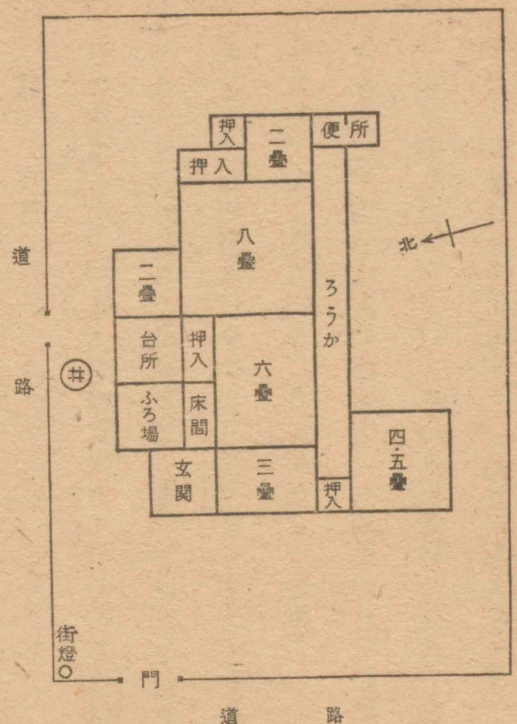
私たちの家は、平家で、八

疊・六疊・四疊半・三疊・二

疊・二疊です。東がわは、となりの家の台所とほとんどく

つついており、南がわの小さい庭のむこうにも家があつて、あまり明かるくはありません。

三疊は玄関で、二疊は二つとも物置になっています。



私の家の間取り

私たちの家には九人住んでいます。おじさんおばさんに、いとこのかず子さん、とし子さん、道男さん、これだけで、六疊と四疊半を使っています。おとうさんおかあさんに、敬一にいさんと私、この四人が八疊を使っています。としさんは中学一年、おにいさんは中学二年、私と道男さんが五年です。

朝と晩には、九人がそろつて六疊で食事をしますが、ときどき「まったく満員電車のようにだ」といつて笑います。かずさんは、夜は玄関の三疊で勉強したり、ねたりしています。ふいにベルがなるとおおさわぎです。かずさんのおねえさんのちか子さんがおよめにいかれるまでは、一〇人でしたから、なおたいへんでした。

おじさんは六六ですが、会社につとめていられます。おじさんは、どんなときにもおこつたことがあります。どのようなことでも「それもよかろう。」とさんせいしてくださいます。まえからそうだったので、今でもわすれないでたずねてくる人がたくさんあります。夜はラジオをきいたり、おそくまで本を読んだりなさいます。朝は早くおきて、近所を散歩なさいます。

おとうさんは五四で、まえにはほとんど病氣をなさったことがありませんでしたが、戦争中、お役所につとめていて学校の子どもの疎開のことでむりをして働いたため、だいぶからだ弱くなりました。いそがしいときがつづいてつかれがはげしくなると、夜中に急にひきつけて、何もわからなくなってしまうのです。それで、うちじゅうでよく氣をつけて、あまりおつかれにならないように注意しています。

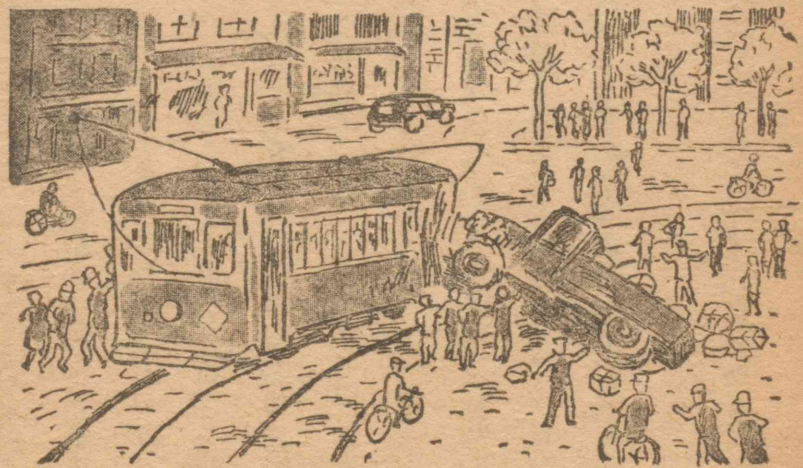
おとうさんも、ほとんどおこることはありません。まえには化学の先生でしたが、今はある中学校の校長です。小さなことでもよく考えて意見をいわれます。勉強のことをうかがうと、いつもにこにこしながら教えてくださいます。おとうさんのいちばんきらいなことはきょうだいげんかです。私がいさんといいあらそいなどをすると、注意をなさいます。おとうさんは毎日満員の電車で、往復三時間もかかつて通勤されるので、夜はいちばんさきにねてしまわれます。

このあいだ、おとうさんのおのりになった市内電車が石炭をつんだトラックと正面しようにつをしました。おとうさんはまんなかにつけていたので無事でしたが、両方の運

轉手さんと電車のまえの方にのつていた人が死にました。いきなりドシンと電車がとまると、のつていた人はみなしょうぎだおしになり、バラバラと屋根の上に何か落ちてきました。びつくりしてまえの方をみたら、まっくらなものがあり、運轉台はメチャメチャにこわれていたそうです。おとうさんは、トラックがむちやをしたのだろうといわれました。乗客のためにいつしょうけんめい運轉をしていた運轉手さんやお客さんが、アツというまに死んでしまったことは、ほんとうに氣の毒だと、おとうさんはくりかえして話してられました。働き手を急にうしなつた運轉手さんのおうちでは、どんなに困ることでしょう。交通局や組合でできるだけのことをするとしても、十分とはいかないだろうということです。おとうさんは、電車はやっぱりまんかにならなくてはいけません。しみじみいわれましたが、私はおとうさんがまたそのようなあぶない目にあわれないといいがと思つて心配です。

お婆さんは五六、おかあさんは五二で、ほんとうのきょうだいです。たいへんなかがよくて、炊事も、せんたくも、買物も、みな助けあつてやつていられますので、おかあ

さんがふたりいるようです。戦後はどの家にも、二家族も三家族もはいつていますが、私たちの家のように、台所をいっしょにしている家はあまりなさそうです。たべものやかかりのことになると、このごろはきょうだいでもうまくいかないことが多いようです。ふたりで道路のむこうがわのあき地の畑を、五〇坪ばかりたがやしていられます。おじさんもおとうさんも私たちもてつだいですが、おかあさんたちがいちばんねつしんです。かず子さん、とし子さんをはじめ、みんなが掃除や後片付などのおてつだいをしますが、おかあさんがたは、朝早くから夜おそくまで、仕事をしています。「小さい子どももないし、家も廣



交通事故

くないけれど、女の用事はきりが無い。」といわれます。

たべものや着物のことなどは、すべておかあさんたちの考えでまゐります。どんな代用食でも、どんなおべんとうでも、おじさんも、おとうさんも、だれもくじょうをいいません。

うちでは、どちらも荷物を焼きませんでしたから、戦災や引きあげの親類や知りあいの人たちに、だいぶ分けてあげました。それで今は、着物、とくに下着類やくつした・ふとん・しきふなどに困っています。おかあさんがたの夜の仕事は、そのつくりいが大部分だともいえます。おばさんやおかあさんは、昔からなんでもたんねんに手入れをして、たいせつにとつておかれたので、今役にたつものがだいぶあります。

食糧じゆくもずいぶんたいせつに使っています。配給されるものは、種類や質がちがうことが多いので、それを区別して、しまっておいて使います。

予備のお米は、大きなガラスびんに入れて、虫のつかないようにしてありますが、遅配おそばいがつづくとき、目にみえてへつていき、心細くなります。お米の配給がきちんとあれば、

朝と晩はおかゆや代用食にして、少しずつお米をためていきます。配給の粉はさまざまですから、まぜて使います。豆などは、よいのやわるいのや、色のちがうのなどがまじつてゐることがあり、そんなときには、より分けて使います。にえかたもちがうし、味もちがうからです。イーストをとつておいてパンをこねたり、代用食をつくつたりする苦心はよいではありません。野菜は家の畑からもとりますが、人数が多いので、配給のうまいかないときには困つてしまします。知りあいの農家まで分けてもらいにいくことも少なくありません。庭のすみにいけておいたり、かわかしてとつておいたりしたのも使います。

ぬかや塩が不自由ですから、つけものもふだんはたべません。おさかなもそう順調にはきませんし、みそやしょうゆもおくれがちですから、おばさんとおかあさんで、「何をどうしてたべたものやら。」といつて話しあわれることもしばしばあります。

おとうさん、おじさん、かず子さんなどが、おつとめ先の組合で安いものを買つてこられることもあります。家の近くには、生活共同組合というものがあり、うちもはいつ

ていますが、ちかごろは、なかなか思うように物が手にはいりません。かず子さんが熱心な賛成者で、ときどき、おばさんたちと、話しあいをなさることがあります。

かず子さんは小さい子どものそだてかたを研究する所につとめていて、ふだんは、町や村の託児所や保健所をまわつていますが、農はん期などには、村の託児所のせわをしにいかれます。

燃料は、どこの家でもたいそう困つていようですが、私たちの家でも、となりの家のほうの庭の木をきつたり、古くなつた物置などをこわして、まきをつくり、それをたいてせつに使つています。そして、なるべくガスの出るときや電氣の強くなるときをみはからつて、にたきをします。

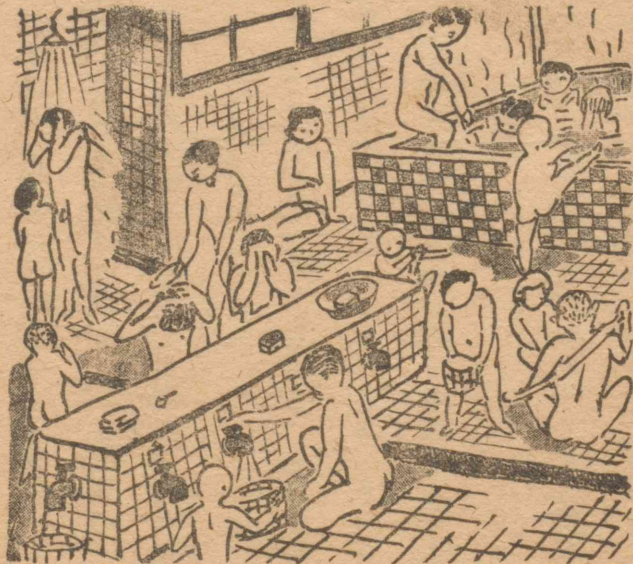
火なしこんろが、おかま用、おなべ用と二つもつくつてあつて、おかゆをにる燃料を節約したり、にたきしたもののひえるのをふせいだりしています。おかゆなど、にたつたところで、この火なしこんろに入れておくと、別に熱を加えなくても、どろりとしたおいしいおかゆになります。近所のうちで電氣を使う時間はたいがい一致していて、そ

のときは弱くなりますから、私たちの家では、なるべくそのときをさけてにたきをしま  
す。それには、火なしこんろがたいそう役にたちます。お湯をわかしてとっておくのに



大正末ごろの銭湯

は、まほうびんを使っています。



現在の銭湯

電気こんろやガスこんろは、まわりや下に熱がにげないように、うちがわがとたん、  
そとがわが木、底がいしわたの箱をつくり、そのなかに入れて使っています。これはみ  
な、おとうさんが考えておつくりになったのです。おふろも燃料の関係で、特別の日に  
しかわかしません。ふだんは銭湯せんとうにいくのですが、おつとめにいくおとうさん、かず子  
さんは、お困りです。

水道は給水所きゅうすいじょに近いめか、わりあいによく出ます。場所によつては、だいぶ出がわ  
るく、バケツなどのためにためておかないと困る家もあるというのに、ありがたいことです。  
私たちの家では、朝と晩のごはんのときが楽しい時間です。たいていの日には、九人  
がみなそろいます。そして、いろいろなおもしろい話をします。朝は、おじさんの散歩  
のときのお話がよく中心になります。畑の作物てきもののこと、お天気のこと、肉屋の犬のこと、  
小鳥のこと、新聞配達の子どものこと、交番のおまわりさんのことなどがあつて、私た  
ちまでおなじみになったような気がします。晩には、みんながおもしろい話をします。  
話がありすぎて、おとうさんとおじさん、おかあさんとおばさんやかず子さん、おにい

さんとし子さんと私たち、というような組になってしまふことさえあります。政治の



こと、配給のこと、電車内のできごと、学校での行事、お店のこと、お客さまのことなどが、多く話されます。ときには、昔のことなどもいろいろ出てきます。私たちの小さかつたときのことなどが話されると、はずかしくて困ることもあります。

多いようです。川の上流で景色もよいので、ハイキングをかねていて、私たちの楽しみの一つです。そのときの計画は、おにいさんを中心に、私たちがたてています。いつごろの

うちじゆうでおとうさんのお友だちのいるいなかの方へ出かけて、野菜やいも類などをいただいでくることも、ときどきあります。すばんは、おじさんかおかあさんのことが

電車がすいているかということなど、おにいさんはたいへんよく研究しています。

本はだいたいいろいろなものがあるので、本を読むことも、うちじゆうのもの楽しみになつていきます。お友だちなどがみえても、せまくて遊びまわれないので、たいてい本を読んで遊びます。

ちくおんきやオルガンも、もとはありましたが、今は疎開したままになつていて、ラジオをきいて楽しむだけです。

家の人たちの楽しみを表にしてみました。

おじさん 散歩、碁、読書（政治、経済、歴史など）

おとうさん 畑づくり、写真、読書（科学、科学者の傳記など）

おばさん 買物、裁縫、日本音楽

おかあさん 畑づくり、料理、生花

かず子さん テニス、料理、西洋音楽、映画、読書（歴史、科学、文学などさまざま）

敬一にいさん フットボール、植物採集、読書（科学）



とし子さん 裁縫、ししゅう、読書（旅行記、小説、植物の本など）  
道男さん 野球、模型の製作、ハーモニカ、読書（科学、工作など）  
じゅん子 畑づくり、裁縫、押花、読書（動物などのものがたり）  
私たちの家は、ほんとうに満員電車です。でも、みんなが助けあっている楽しい満員電車です。

となりの家があいたら、ちか子さんたちもよんで、そこでまたいつしよにくらそうと  
いつていられます。そうなったらどんなにうれしいことでしょう。そしておとうさんは、  
この家はお友だちに貸してあげたいといつていられます。そのかたは九人家族で、毎日  
片道三時間もかかる所からお役所にかよつてゐるのだそうです。



## 一一 図書委員になつて

月 日

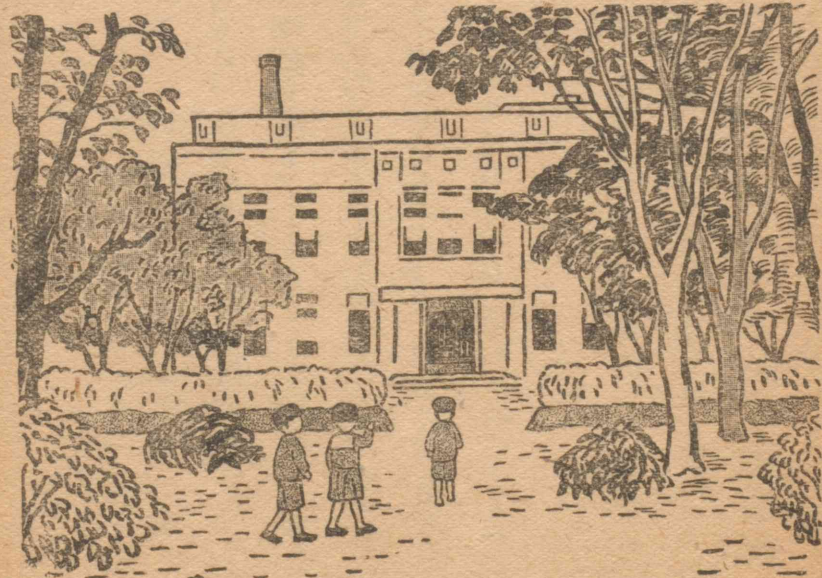
道 男

このあいだ轉校していつた水谷君のかわりに、ぼくが図書委員に選挙された。きょう  
の自治会では、水谷君の手紙を読んだり、学級文庫をよくすることを相談したりした。  
水谷君の手紙は、もうひとりの図書委員の中村まさ子さんが読みあげた。水谷君は、こ  
んどいつた学校の図書室や学級文庫のことを知らせたあとで、さつそく縣立図書館にお  
友だちと見学にいつたときのことをくわしく書いてくれた。それは次のようである。

縣立図書館は、公園のなかにあります。おとなの入口と子どもの入口とは別になつて  
います。係の人に、先生からの手紙を出すと、それではおとなのほうから案内してあげ  
ましょうといつて、おとなの入口の方へつれていつてくれました。おとなのほうは入口  
で料金をはらつて、閲覧証という番号のついた用紙をもらいます。ぼくたちは、番号の

ついでにないの一枚ずつ貸してもらいました。それには自分の住所・氏名・職業・年れいなどと、読みたい本の名を書いたところがありました。

階段をのぼると、引き出しのついた箱がいくつもならべてあります。いくにもその人が、引き出しをぬいて、そのなかにあるカードで本をさがしてました。ここは目録室といつて、借りたい本の名がわかってる人には、その本の番号を教え、しらべたいことがきまっても、どんな本がよいかわからない人には、本の名やその番号を教えてくださいます。



ある図書館

本を書いた人の名まえからも、この図書館にある本をさがすことができるそうです。係の人が何か見たい本がありますか、といわれるので、ぼくは、いつか先生にみせてい

第 号

閲覧票番号 ○○○○図書館 交附年月日  
普通図書館閲覧票

図書は目録又は書架に就てお探しの上本票にその番号と書名とを明記して出納所へお出し下さい。(同時に借覽し得る冊数は三冊宛但新刊書は一冊)

本ノ番号	交附	書	名	冊数	受領
住所		区	町	丁目	番地
職業			姓名		

★直ちに御署名下さい。姓名には「フリガナ」をおつけ下さい。

★この票は退館の際係員の検印を受けて受附へお渡し下さい。

を書いたのでは、その本をほかの人が借りている場合もありますから、水産についての

ただいた「水産の話」という本です、といったら、ヌの字の所を引いて、番号を教えてくださいました。ぼくたちは、その本の名と著者の名や番号を、さっきの閲覧証に書いてみました。係の人はもうひとつの引き出しに、水産についてのいろいろな本のカードがあることを教えてくださいまして、一冊だけ見たい本

本を何冊か申しこむほうがよいと、教えていただきました。

この用紙をもつて、次の室の出納係の所へいききました。ここではおおぜいの人が、本をもつてきてくれるのを待っています。出納手の少年が、たくさんの本をかかえて書庫から出てきました。出納係の人はそれを受け取ると、閲覽証にあわせて、その名をよんで、本を渡します。

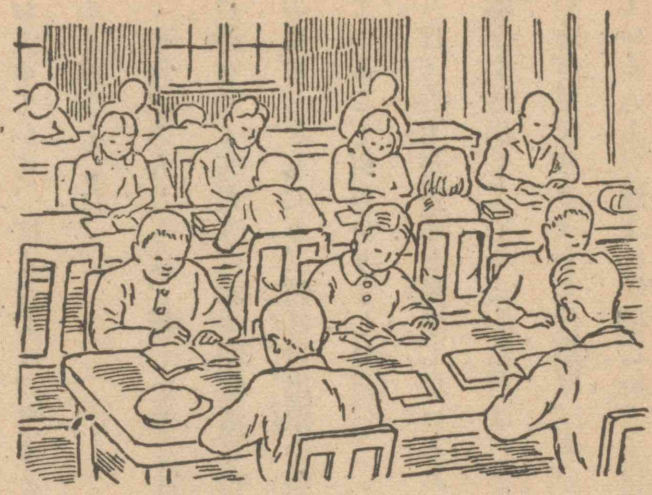
案内の人はぼくたちの閲覽証をもつたまま、事務室とのしきりになつてゐるひらき戸をあけてなかにはいりました。そしてぼくたちにも、はいるようにいわれました。ぼくたちは、事務室をぬけて、書庫に案内されました。大きな鉄のとびらが、両方におもおもしろくひらかれています。書庫のなかは暗くて、電燈がついています。高い本だが何十とならんでいて、そのおもてにもうらにも、本がぎつしりと、よく整頓されてならべられています。古い新聞がひと月ごとにとじこまれていて、それが何枚かの、ぶあつ板のように、きちんと整理してある所もありました。また古い雑誌が製本してならべてあるたなもありました。本には、みな番号がついていて、その順にならんでいました。

係の人は「水産の話」を番号にあわせて、たなの上の方からさがし出してみせてくださいました。いつかの本と同じで、なつかしい気がしました。「水産の話」をもとの所におさめてから、ぼくたちは、書庫を出て事務室にいきました。まぶしいほど、急に明るく感じました。

事務室の人たちは、新しい本を注文して買つたり、いたんだ本を修理させたり、本の目録をつくつたり、本や閲覽者についての各種の統計をつくつたり、書だなの整理や本の虫ぼしをしたり、館外貸出票の整理をしたり、思いがけないほどたくさん仕事をしていることがわかりました。

ぼくたちが書庫を見学しているあいだ、出納手の少年が、何度も何度もいきまきして、本を引き出していきました。はしごをあがつたり、おりたり、重い本を何冊もかかえて、いそぎ足で歩きまわる仕事は、ずいぶんつかれることだろうと思ひました。夜学にいつている人も、晝まは学校にいつて、夜働いてゐる人もゐるそうです。図書館にとめてゐる人は、いくらでも本が読めていいと思つていましたが、なかなかそんなまやさし

いことではなさそうです。



読覧室のようす

事務室を出てから、おとなの読覧室をのぞきました。大きな机にそれぞれスタンドがついていて、たくさんの人が静かに本を読んだり、書きものをしたりしていました。つかれたのか、いねむりをしている人もありました。

入口で読覧証をかえして、公園に出ると、なんだかほっとしました。もう一度、子供の入口をとおつて、児童読覧室の方へいきました。ここは、ぼくたちの世界で、たいそう明かるく氣持のよい室です。入口で料金をはらうこともい

りません。読覧票は、係の人の机の箱に入れてあります。本だなが事務室と読覧室とのあいだにあつて、ほしい本のあるなすがすぐわかります。しかし、本だなのこちらがわ

# 金澤文庫

金沢文庫の印

えを読覧票に書きこんで、係の人に事務室の方からとつてもらうのです。小さな目錄箱も用意してあつて、金あみの本だない本で、ぼくたちに読めそうな本が、さがせるようになっています。

窓がわの本箱には、すぐとつて読めるような本がぎつしりとならべてあります。これは読覧票に書かずに読んでもよいのです。三、四年生は、おもにこのほうを読むようです。係の人は四人ほどいて、ときどきみんなの読んでいるようすをみまわつたり、どんな本をよんだらよいかということの相談にのつてくれたりしています。ぼくは館外貸出のしかたをきいたり、それに必要な申込用紙をもらつたりしました。

主事室しゅじしつにいつてからは、図書館のはじまり、日本の図書館の数、外国の図書館のありさま、図書館を利用する人たち、図書館で困ることなどについて、かわるがわる質問しました。みなさんやぼくのもう知っていることもあつたわけです。図書館で困ることは、

わが國のおもな図書館

(昭和21年5月1日現在)

蔵書冊数5万冊以上のもの

館名	蔵書冊数	館名	蔵書冊数
国立図書館	(千単位) 1038	縣立佐賀図書館	(千単位) 63
秋田縣立秋田図書館	115	長崎縣立長崎図書館	119
行啓記念 山形縣立図書館	55	鹿児島縣立図書館	72
福島縣立図書館	61	市立小樽図書館	55
御成婚記念 千葉縣図書館	69	函館図書館	85
都立日比谷図書館	50	前橋市立図書館	61
都立駿河台図書館	61	横浜市図書館	71
明治記念 新潟縣立図書館	104	金沢市立図書館	70
紀元二千六百年記念 富山縣立図書館	65	市立飯田図書館	109
石川縣立図書館	90	市立名古屋図書館	67
縣立長野図書館	72	市立名古屋 公衆図書館	85
葵文庫	64	神戸市立図書館	137
京都府立京都図書館	196	成田図書館	140
大阪府立図書館	350	財團法人岩瀬文庫	91
奈良縣立奈良図書館	84	財團法人大橋図書館	190
和歌山縣立図書館	69	慶應義塾 藤山工業図書館	65
鳥取縣立鳥取図書館	59	叡山文庫	71
島根縣立松江図書館	56	天理図書館	160
山口縣立山口図書館	103	財團法人鎌田 共済会図書館	57

学級文庫を他の学級文庫と交換すること、

ちの学級文庫に寄附してくれた。そこで、ぼくから水谷君に礼状をあげることにした。

既設図書館数	
設立者別	館数
国立	1
府縣立	73
市立	200
町立	564
村立	1669
組合立	38
私立	854
計	3398

外國のおもな図書館

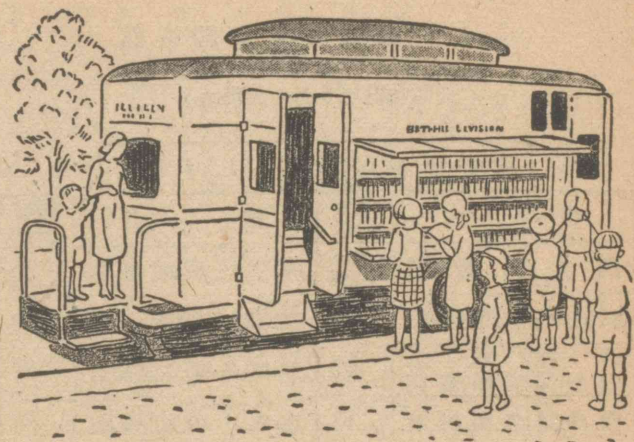
蔵書冊数100万冊以上のもの(1926年現在)

館名	創立年代	蔵書冊数	館名	創立年代	蔵書冊数
大英博物館文庫	1753	(万単位) 300	レニングラード 国立公共図書館	1814	(万単位) 420
ケンブリッジ 大学図書館		120	(レニングラード) プーシュキンの家	1905	112
(オクスフォード) ボドレー図書館	1602	104	ニューヨーク 公共図書館	1895	254
パリ国民図書館	1518	414	(ボストン附近) ハーバード大学図書館	1638	232
(ストラズブル) 大学及地方図書館	1871	130	シカゴ公共図書館	1872	167
(ミュンヘン) バイエル国立図書館	1558 -71	155	ボストン市公共図書館	1854	144
(ウィーン) 大学図書館	1775	105	(ニューヘーヴン) エール大学図書館	1701	139
(ナポリ) ヴィクトル=エマヌエル 三世王立国民図書館	1734	101	ニューヨーク市 コロンビア大学図書館	1754	136
(マドリッド) 国民博物館文庫	1716	116	クリーヴランド 公共図書館	1869	130

小公子の二冊の本をばくた

水谷君は、リンカン傳と

やはり本がなくなったり、本をよごしたり、その一部分をきりとつたりする人のあること、本を買おうとしても、なかなか買いくらいこと、閲覧室がせまくて、希望する人全部を、待たせないで入館させることのできないこと、などだということを書きました。



外國の移動図書館

本をもつとふやすこと、本の修理をすること、などもきまつた。

学級文庫の交換は、中村さんとぼくから、他の学級に話すことになつてゐる。本をふやすには、学級で花を栽培し、これを賣つて、そのおかねで本を買つてはどうか、という意見があつて、それを実行することになつた。本の修理は、來週の工作の時間に、のりと糸とあつ紙をもちよつてすることになつた。

つになるといわれたが、ぼくもみんなのためにしつかりやろうと決心した。

先生は図書館の仕事はこれからいつそうたいせ

### 三、大きな病院

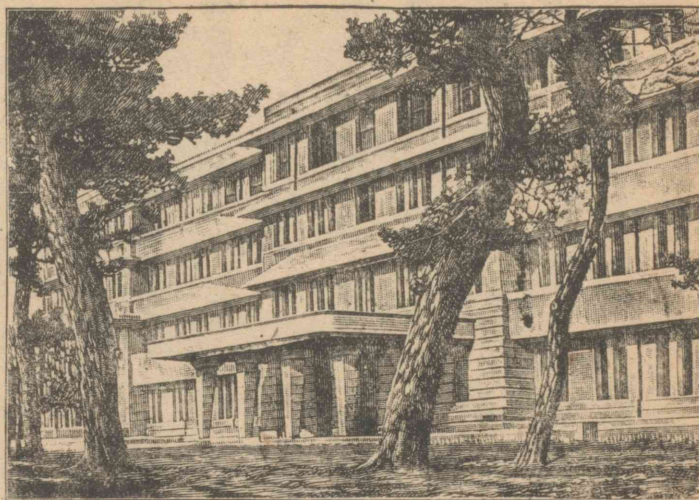
月 日

じゆん子

大学病院に二〇年以上つづけてつとめていられるおじさんが、久しぶりにおとうさんのおみまいかたがたおみえになつて、おとうさんを診察してくださいと、私たちに病院のお話をしてくださいました。

おじさんのつとめている病院は、四階建の建物で、そのなかに、内科・外科・産婦人科・小兒科・眼科・耳鼻科・齒科その他の科があつて、すべてろうかずつたいにれんらくできる、大きな病院だそうです。ベッド（病床）の数が八〇〇ぐらいもあつて、大学病院のなかでは、大きいほうです。しかし外國の大病院といつたら、とてもそんなものではなく、アメリカあたりにはこの二〇倍もある病院があるそうで、それからみると、おじさんのところなどは、小病院といわなければならぬ、とのことでした。

おじさんの専門は、内科のうちの、しかも肺結核の治療ですが、それについては、こ



大 学 病 院

でも、うがいもしなかったりする。また食事のまえに手を洗わない人も多いようだ。もつと予防の方法をさかんにしたり、患者のベッドをふやしたり、かかってからの治療をくふ

んな話がありました。「文明國のうちでは、日本は肺結核の患者が多い國だ。これははずかしいことだと思う。しかもこの病氣に対する日本人の知識は、いっばんにたいそう低い。いったん肺病にかかつたというとき、日本では、ただその病人をけざらいすればすむと考えるふうがある。傳染病だから、警戒することは大いに必要だ。しかしそういうふうにくわがっていないながら、いっぽうではたんをどこへでもはきちらして平氣でいたり、人ごみのなかへいつて帰つてき

おもな病原菌の発見

(菌の名)	(発見者の名)	(年)
チフス菌	ガフキーとエーベルト	1880
結核菌・コレラ菌	コッホ	1883
じふてりや菌	レフレルとクレブス	1883
ペスト菌	北里柴三郎とエルサン	1894
せきり菌	志賀潔とクルーゼ	1897
百日せき菌	ボルデとジャングー	1900

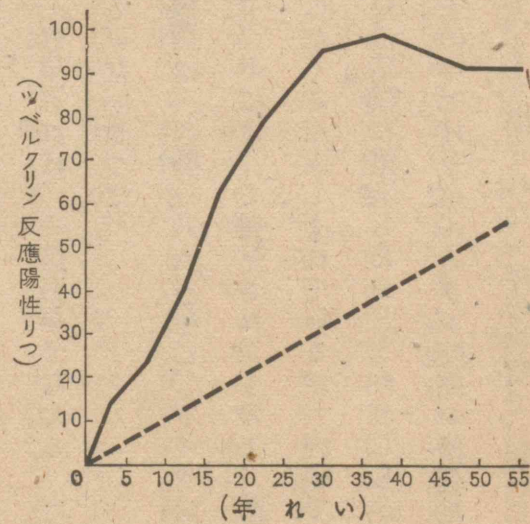
うしたりすれば、肺病はそんなにおそれる必要はない。結核は、今日ではむしろなおりやすい病氣だといつてもよい。とにかく結核の療養は、時期をにがしてはいけない。結核の療養は、一日早ければ、一箇月早くなおる。だから早くみつけることがたいせつだ。もともと結核菌は、西暦一八八三年に、ドイツの医学者ローベルト・コッホによつて発見されたもので、菌は患者のたんのなかにたくさんふくまれているが、肉眼では見ることができない。結核に感染したかどうかをしらべるのに

は、科学的な検査の方法がいろいろある。その一つはツベルクリン反応の検査だ。ツベルクリンというのは、結核菌によつてつくり出された一種の物質で、結核に感染するとからだかツベルクリンに対して敏感になるといふ性質を利用して、結核に感染したかどうかを検査する。つまり、ツベルクリンの注射によつてひふが赤くはれるものは、

結核に感染したことがあるし、これをツベルクリン反応が陽性だといふのだ。

最近の統計によると、大都會で生活をしているものは、満二〇歳までに約七〇パーセントが陽性になることがわかった。それが農村では、三〇パーセントくらい低い率だ。しかし感染したからといって、むやみに発病するものではないからあわててはいけない。発病しているかどうかは、レントゲン検査とか、たんの検査、赤血球の沈降速度などをしらべて、たしかめることができる。

いつぼう予防の方法もだんだん科学的になってきている。近年わが國でも、かなり行われるようになったBCGがその一つだ。これはフランスの医学者であるカルメットとگرانによつて発見された一種の結核菌で、これを人体にうえつけて、人工的に結核に



年齢とツベルクリン  
反応陽性率との関係

感染させ、害にはならないようにして免疫性をあたえようとするものだ。

現在は、戦争中の過労や戦後の栄養不足のため、結核になる人が非常にふえている。そして今のような状態がつけば、結核患者はいよいよふえるおそれがある。食物だけでなく、住居の状況や、交通機関や映画館のこんごつなども、ずいぶん危険といわなければならぬ。紙やハンケチに不自由するために、不衛生なことになれてしまった人もあるが、これなども困ったことだ。」

この病氣にかかったらどうしたらよいのですか、とうかがいますと、それは、信用のできるお医者さんのいうことをよくきいて、養生をすればよいのだといって、新しい療法の話をいくつもしていただきました。

おとうさんの病氣については、

「どうもおじさんの専門のほうではないのでよくわかりませんが、ふだんあのくらい元氣ならそう心配することはあるまい。しかしおとなで夜中にひきつけるのは、ごくめづら



しいから、その原因をはつきりさせる必要がある。それにはひとつゆつくりと、おじさんの病院にでもはいつて、いろいろな専門のお医者さんにくわしくしらべてもらうのがよい。いろいろな科の医者が、現在あるもつともよい方法で、さまざまの機械の力なども借りてしらべるのだから、きつとはつきりするだろう。それでもいけなければ、大学の研究室の先生たちの力を借りてやることもできる。しかしそんなにしないでも、おとうさんの病氣の原因ぐらひは、おじさんたちの病院できつとつきとめられるだろう。

こういつたことは診察ばかりでなく、治療のほうでもやはり同じで、むずかしい病人は、内科にいつたり、外科にまわされたり、耳鼻科と内科の医者が立ち会つたりして、治療する。医者というものは、人の生命をとりあつかうのだから、少しもごまかすことのできないものだ。だから自分にはつきりしないときは、他の人の助けを求め。それがこういつた専門の医者の集まつている大きな病院では、いつそうやりやすいのだ。

だからふつうの病人は、いつばんの開業医にかかるが、むずかしい病氣にかかつた人や、病氣が重くなつて手あてのむずかしい病人は、大きな病院にはいるわけだ。おじさ

んの病院なども、縣内はもちろん、他の府縣からも集まつてきている。

入院するとずいぶん費用がかかるように思つてゐる人も多いが、おじさんの病院のような大学の附属病院などは、思ひのほかにはやすあがりなのだ。だがなんといつても、病氣にならないことがいちばんだ。

みんなが病氣にならないようにすることは、公衆衛生の受けもちだ。はじめにもいつたように、たんのしまつとか、うがいの励行とかのほか、寢具の日光消毒や予防注射の励行、あるいは、栄養食の研究とかいつたようなことが、もつともつとさかんにならなければ、病人があとからあとからふえるばかりだ。この方面では、アメリカなど、ことにすぐれている。おじさんがあちらへいつたのは、もう一二、三年もまえのことだったが、あのころでさえ、そういう方面の研究や教育がすすんでゐるのに感心した。町や村には保健所があるし、小学校・中学校などの保健衛生の設備も十分ととのえられていた。今、きみたちがいただいでゐる学校給食なども、あちらではずつとまえからやつていた。そのごうんと發達したという話だから、こんごも大いに研究して手本にする必要

があるだろう。」

おじさんの話は、おとうさんの病氣のことから、だいぶ廣がつていきましたが、たいへんおもしろくうかがいました。そのあと、おじさんは、日本の医学はこれからもいよいよ深く研究され、またいろいろ他の学問の助けも借りて発達させなければいけないということ、戦争中イギリスで發明されたペニシリンというくすりを例にとつて、話してくださいました。このくすりは、肺えんや化のう性の病氣にたいそうよくきくすりですが、これは青かびのつくり出す物から化学を應用してつくつたもので、かびの研究とくすりの研究とが助けあつてはじめてできたものだそうです。

おじさんは、病院は海岸をみはらす高台の上にあつて、すぐとなりには大学の研究室もつづいていいるから、一度ぜひみにくるようにといつてお歸りになりました。

#### 四、工場の見学

月 日

(一)

道 男

地図を見ながら、廣い街道をつきつて、ぞう木林のなかの道を少しいくと、ゆるやかな丘が見えてきた。あたりは一面のさつまいも畑になっている。丘の上の道を少しいくと、左手のぞう木林のなかに、大きなえんとつがあり、やがてコンクリートのしつかりした建物が見えてきた。

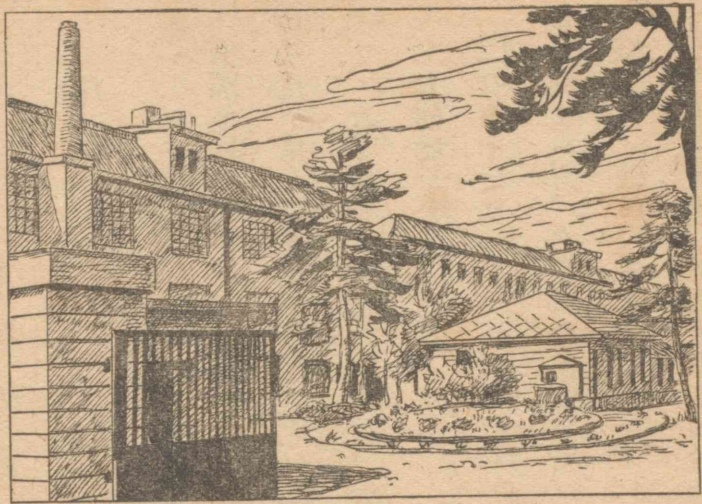
門のまえに立つてなかをのぞくと、正面にはふんすいのある小さな池があり、左がわにしゆえい所、右手に事務所らしい建物がみえる。うえこみやしばふもあつて、明かい感じだ。機械の音もしないし、ちよつと工場のような氣がしない。

しゆえい所で、おとうさんのめいしを出したら、しゆえいのおじさんは、事務所へ電話でれんらくした。すると、事務所の女の人が出て、ソファのある應接室へ案内して

くれた。ちよつと待つたと思うと、すぐ工場長さんがみえた。

ぼくたちは、工場でしらべることや質問することについて、まえもつてきめておいたので、約三〇分ほど、いろいろ工場長さんからお話をきいた。

「この工場では、原料の綿や毛を糸にするときに、どうしても使わなければならない針布というものをつくっている。五、六ミリの厚さに張りあわせた基布とよばれる布地に、短かい鋼鉄線をこまかくうえたもので、紡績工場などではどうしてもなくてはならないものだ。針布で綿を何度もくしけずつてから、や



針 布 の 工 場

つときれいな糸ができるからだ。

針布は、長いあいだ外国から輸入していたが、昭和八年からこの工場で作られるようになった。針をうえる植針機という機械も、はじめの見本は外国から買い入れ、その使いかたなどは、イギリスやドイツへ技師が研究にいつて教えてもらつたり、むこうから熟練工をよんで、ならつたりした。

その植針機は、わが國で改良したものを使うようになり、政府の補助もあつて、昭和一五年ごろからは、針布はほとんど國産品でまにあうようになった。この工場では、わが國の製品の六割ぐらいをつくり出し、あとは他の一、二の会社でつくつてゐる。

この工場で働いている人は、事務所の人も、工場の人、あわせて三〇〇人ぐらいで、その三分の一が女の人だ。特別の事情のある一、二人のほかは、全部社宅か寄宿舎に住んでいる。この工場では、みんなが家族のように、仕事のことでも、そのほかのことでも、なかよく助けあつていこうというのが、はじめからのたてまえで、社宅や寄宿舎も、工場といつしよにできた。

工場で働いている人たちは、新潟縣の人がいちばん多い。またこの工場には、工場の

できたときからつとめている人がわりあいが多い。これは、熟練した人を必要とするこ

の工場の強みになつてい

わ

けた。」

というよう

なことだ

った。

工場さんと話をしている

うちに、作業部長さんと、従

業員組合の委員長さんがみえ

た。ぼくたち三人を、三人の

かたで案内してくださった。

(二)

事務所のまえの、きれいに

かりこんだ

こうやま

きのうえ

のうえ

のうえ

のうえ

のうえ

のうえ

のうえ

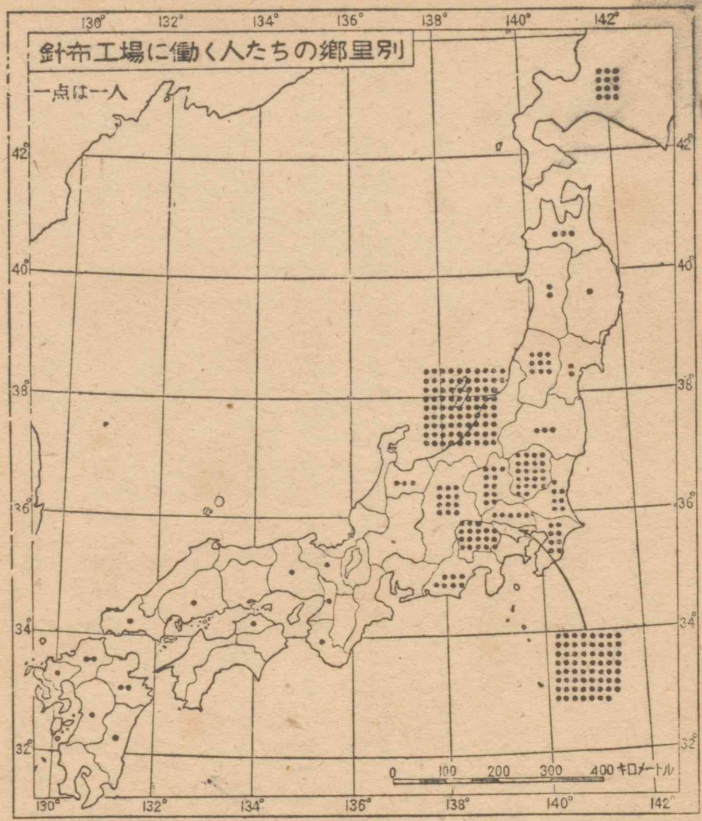
のうえ

のうえ

のうえ

のうえ

のうえ



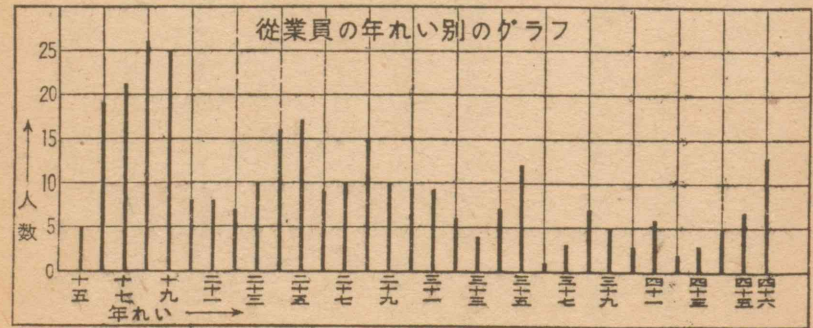
られた道を右の方へいくと、右手にタンクがあり、やがて高いえんとつの下あたりに、

ボイラー室の建物がある。そこには石炭でたくかまと、電力を使  
うかまとがあつた。蒸氣は布をはりあわせるときや、かんそうさ  
せるときに必要なだということだ。

ボイラー室の建物とならんで、布を織る工場がある。十数台の  
機械が、ガチャンガチャンと音をたてながら、ひろはばの綿布を  
織つている。糸のきれいなを一心につないでいる女の人もいた。

この工場では、基布をつくることも、針金をつくることも、針を  
うることも、製品を荷造りする木箱をつくることも、みんなこ  
この工場のなかでやるようになってい

る。よい製品をつくるには、  
このことが大いに役立つとお話だつた。  
布を織る工場となりは、基布をつくる所で、ゴムをのばした  
り、ねったり、布をはりあわせたりする工場だ。ゴムは、布と布  
のあいだをはりあわせたり、布地に弾力性をもたせるために使う



ということだ。

ゴムや布は、大きなローラーのあいだをとおつて、はりあわせられる。このへやはガソリンくさく、またたいへんむしあつくて、長くいられそうもない。ガソリンはゴムのりのなかにはいつているのだが、火事の危険をふせいだり、蒸発するガソリンをもう一度もとへもどしたりするためにくふうがほどこされていた。工員さんたちは、きびんにいそがしく働いていたが、みんなせなかには汗でぬれていた。

この工場につづいて、はりあわせた基布をかわかすへやがある。小さなくぐり戸をあけてなかにはいると、すぐちがつた空気が感じられる。大きな輪型のかんそう機に、はりあわせた基布がまかれてゐる。

室内の温度は二〇度、湿度は四二パーセントだった。きょうの事務所の湿度は、六九パーセントだという。適当に調節した空気をしじゅう送りこんで、五〇パーセント内外の湿度をたもたせておくと、三週間ぐらいで基布がかわくということだ。

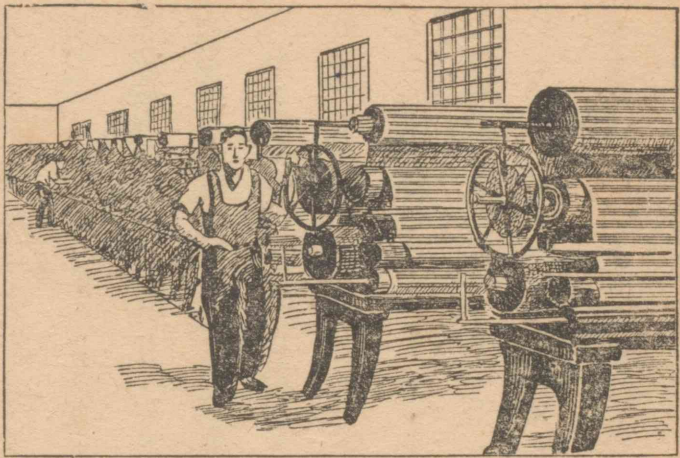
かんそう室を出て、針金の工場にいった。

針金は針布のいわば生命線だ。針金のふとさを一定にし、つやを出し、まがらないような固さにする。それがうまくいくかいかないかで、製品のよしあしがきまる。鋼鉄の質がどうしても外國のよりおとるので、苦心が多いそうだ。仕事はすべて、電力による自動的なしかけで行われているが、針金をけずるダイスや、焼きいれ焼きもどしのための電流の調節に、こまかい注意がはらわれている。

針金を六〇〇度以上に熱して焼きをいれ、次にまた適当な固さにもどすためには、その針金にじかに電流をとおしている。しかし、電流をとおす所は、油やエボナイトやいしわたで絶縁されている箱のなかなので、赤くなつてゐるところは見えない。

へやのなかには、うまくできなかった針金が、はねのけられていた。ぼくたちからみると、少しもかわらないようで、もつたないようだが、よい製品をつくるためには、やむをえないことだそうだ。へやのすみには、それを使って、船のパイプのなかを掃除するブラシをつくつてゐる人がいた。

針金工場を出て、鉄きんコンクリートづくりの三階にのぼった。たくさんの機械がい



機 針 植 の 横

つせいに運轉され、機械の音で、話し声もきまとならないほどだ。はば三センチぐらいの厚い基布に、こまかく針金がうえられては、てんじょうの方へひとりでにつりあげられていく。これが植針機だ

なと思つてよく見た。針金が適当な長さに切られる。基布に針がさされて小さな穴があげられる。そこへ針金がささって、一定の角度に折りまげられる。それらがいつしゅんのうちに行われる。上の方を見ると、かなり大きな鉄のおもりがあつて、針をうえた針布が、だんだん上の方へ引きあげられるようになっていく。そのわきには、ここで働

中できれてもおもりはおちてこないしかけになっている。二階では、三階のとちがつて、横に短かくできていく植針機が、これもさかんに動いていた。そのとなりのへやでは、できた針布をいちいちしらべて、できのわるいのをぬきとつて、手でうえかえていた。ずいぶん根氣のいる仕事で、これは女の人の受持になつているそうだ。

このコンクリートの三階建の工場は、すべて二重窓になつていて、全部一定の湿度がたもたれるようになっていく。湿度計をみたら、ここも四二パーセントになつていた。これは湿度が高いと、針金がさびてしまうからで、工場の敷地を、この郊外の高台にえらんだのも、同じ理由からだといわれた。工場の敷地をきめるまでの苦心を、工場長さんからきかしていただいた。

一階では、横はばの広い機械が、ものすごい音をたててまわっている。そこでは大きなローラーに針布がまかれていて、それがまわるあいだに、針金の先がとがれるようになっていく。機械にはおおいがかぶせてあつたが、これも安全装置で、針金の先がとが

れるときにできるこまかい鉄粉が、働く人の目やからだをきずつけないようになってい  
る。おおいの上にパイプがついていて、鉄粉をすいあげていた。

そのとなりのへやでは、亜鉛の箱をつくり、ハンダづけをしていた。これは針布を途  
中でさびさせないためで、さらに木箱につめる。

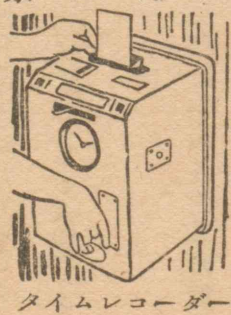
倉庫になつていへやには、荷造りされた箱がたくさん積みあげられていた。荷札で  
行先をしらべると、愛知縣・大阪府・岡山縣・佐賀縣・富山縣などがみつき、なるほ  
ど全國へ送られていくのだなと思つた。

さいごに地下室へ案内された。ここでは、モーターが工場で使う水をくみあげていた。  
夏のあいだは、この水で三階建の各室にひやした空気を送り、そのあまり水は工場の水  
泳用のプールに入れているときいて、いろいろくふうがされているのにおどろいた。

(四)

おべんとうは、工員さんたちの大きな食堂でたべた。独身の人はみんなここで三度の  
食事をするのだそうだが、少しガラシとしすぎているような気がした。講堂をかねてい  
るらしく、ステージもあり、窓には暗幕装置がしてあつた。月に一度はかかさず映画会  
がひらかれ、劇などもやることがあるという話だつた。

厚生部長さんのお話で、この工場では、朝八時から午後四時までが勤務時間になつて  
いて、晝休みが一時間あり、じつさいに働く時間は七時間だということ、あとの時間は、  
いろいろな運動をする人もあり、習字や裁縫をならう人もあり、勉強したり、夜学にい  
く人もあるということ、社宅にいる人は、社宅のまわりの畑をつ  
くつたりすることなどがわかつた。東京に近いので、仕事がすん  
でから、映画をみにいくのにも便利だといわれた。寄宿舎のおふ  
ろは毎日たてられるが、宿舎の人だけでなく、社宅の人もその家  
族も、男と女と一日こうたいにはいるのだそうだ。



運動場をとおつて、女子の寄宿舎を見学した。へやごとに、コスモスやきくをいけた  
かびんがかざられていて、明かるい感じがした。

門の所のしゅえい所で、タイムレコーダーを見た。カードをいれておすと、出勤や退

出の時刻が記入される。出勤しているときと、帰ったあととのカードのおき場所は、タイムレコーダーの右と左になっていて、一枚一枚のおく場所が番号順にきめてある。

(五)

また道をもどつて、ゆるやかな谷をこして、社宅のたちならんでいるなかをひとめぐりした。同じような構造で、なかも同じ間取りだそうだが、玄関の戸などは、いろいろとちがえてあつた。どの家にも少しづつ畑があることと、ふろのついていることは、よく考えてつくつたものだと思つた。

それらの社宅のまんなかに、テニスコートがあり、そのとなりには社宅の人たちの買物をする市場があり、また幼稚園までできている。

テニスコートをへだてた丘の一角には、工場のクラブがある。このクラブの二階の洋間で休みながら、また工場長さん、委員長さん、厚生部長さんたちのお話をきいた。クラブには医療室がついており、お医者さんも専属の人がふたりいるそうだ。ピンポン室も二へやあり、二階には日本間も四つほどあつた。

工場長さんは、おとうさんと同じくらいの年の人で、ぼくたちの質問にもしんせつに答えてくださった。学校のことなどいろいろおききになって、おもしろがつていられた。この工場は、このごろやつと戦前の半分までに回復し、他の工場の製品とあわせる、現在日本で使う針布はまにあわせることができるが、機械を組み立てれば、もつと製品をつくつて、東洋各地に見返り物資として出すことができるそうだ。東洋にはわが國しか針布をつくる所がないし、外國でも、今のところこちらへ送り出すほどはつくつていないそうだ。

厚生部長さんも四十ぐらいの人で、しんせつにいろいろ教えてくださった。工場の食堂は大人数だから、遅配のときはたいそう困ることや、食事はなるべく家庭料理ふうにつくるほうがよろこばれることや、商工省でせわしてもらつて、魚がわりあいに多く配給されるので、工員の中からだによいということなどの話もあつた。

従業員組合の執行委員長さんは、三〇ぐらいの人で、やさしいしんせつそうな人だつた。ぼくは、植針などあきはしないかときいたら、一〇年、一五年とやっている人たち



が、「やつと機械のことがわかってきておもしろくなつた。これからだぞ。」というよう  
な意気こみだと話してくださった。機械がおもにも働く、かんたんな仕事のようにみえる  
が、これではなかなか頭を働かせ、手を働かせる部面があるのだと笑つて教えてくださつ  
た。吉田君は、組合の役員はどうしてきめるのかとか、どんな部があつてどんな仕事を  
するのかなどときいた。

ぼくたち三人に、三人も四人もの人たちがつきそつて、ていねいに教えてくださつて、  
ほんとうにありがたかつた。これでやつと工場というものがわかつたような気がした。  
お礼をいつて、帰り道についた。

おとうさんに、このことを話したら、「それはよかつた。だが工場にもずいぶんいろい  
ろなのがある。あの工場は特別よい工場なのだから、それだけでかんたんにのみこんで  
しまつてはいけない。」といわれた。お礼の手紙も早く出すようにと教えてくださった。  
あした、三人で書くことにしよう。

## 五、紡績工場へ

月 日

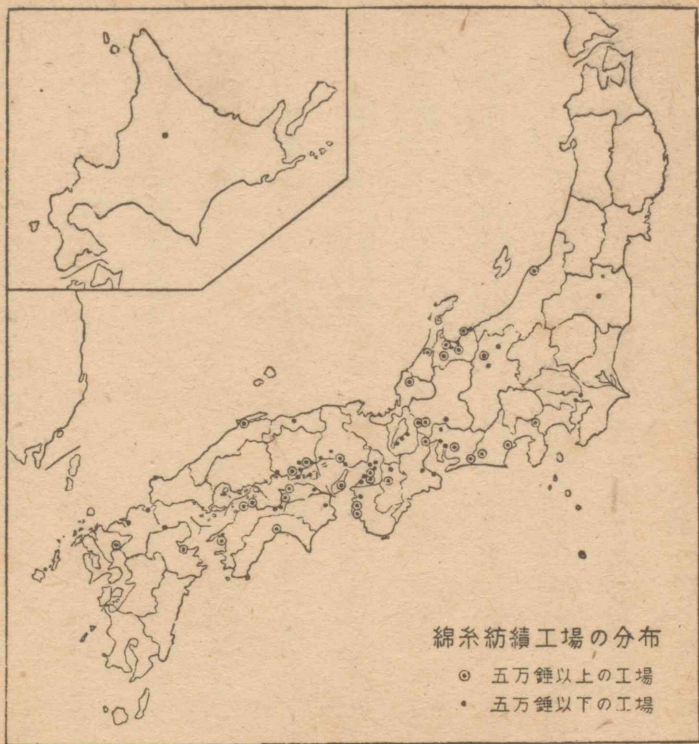
道 男

このまえに針布工場へ出かけてから、針布がどういうふうな、どんな所で使われるの  
だろうかと思うと、どうしても実際に使われるところを見にいきたくてしかたがない。  
おとうさんに話したら、それなら紡績工場へらんらしくしてみようといわれた。その結果、  
次の日曜日は工場が休みでないことがわかつたので、工場長さんあての手紙を書いてく  
ださつた。

日曜日に、針布工場へいつた三人はさそいあわせて、省線で工場へむかつた。省線を  
おりて、工場のある所をたずねたらすぐわかつた。このあたりは工場の多い所だつたよ  
うだが、まだほとんど復興してない。

だるま船のかようほりにそつて二〇分ばかりいくと、目的の工場へついた。ここだけ  
が戦災をまぬかれたようだ。針布工場と同じように、しゆえいさんが案内してくれた。

すると、大きな事務所の一室で、工場長さんがあつてくださった。



うな話があつた。

この工場は今から三〇年あまりまえにたてられた古いものだが、しあわせにも戦災をまぬかれたので、今力いっぱい機械を動かし、見返り物資として、綿糸や綿織物をどんどんつくり出している。日本全体としては、紡績工場もだいぶ復興してきているが、まだまだみなさんの着物の原料をつくり出すまでにはいかない。しかしもう少しのしんぼうだろう、というよ

工場のなかには、事務所の別の人が案内してくださつた。

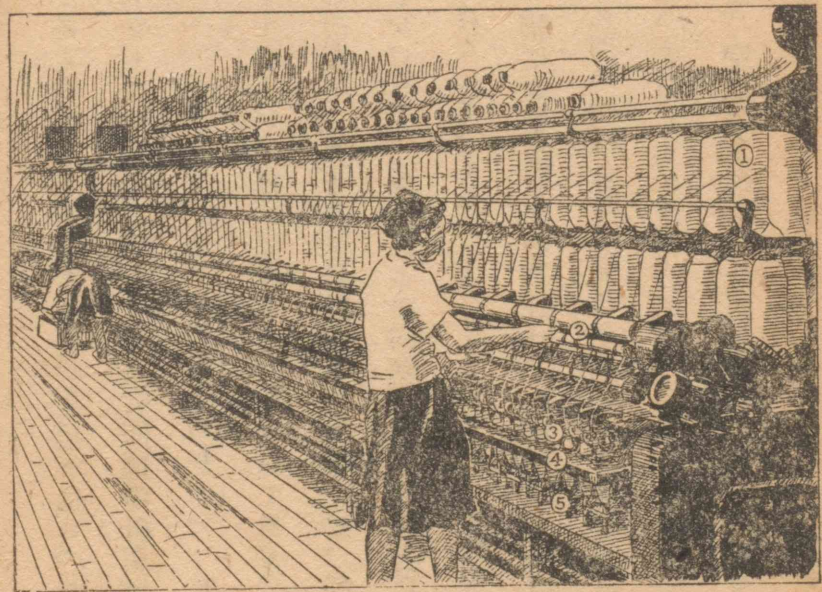
くくられた原料の綿が山のようにつんである倉庫をのぞいてから、工場へはいった。綿をほごしてから、つぎつぎにローラーにかけている。このローラーに問題の針布がまかれていた。

細い針布が、一メートルはばぐらいのローラーいっぱいにはすきまなくまいてある。一方には横にとりつけた針布があつて、その針布と、ローラーの針布とのあいだは、紙ひとえのすきましかない。そのあいだへ綿をかけると、ローラーの回轉につれ、適当な厚さにほごされて出てくる。針に綿がひっかけられて、くしけずられることがよくわかる。いくつもの機械をくぐつていくうちに、綿はごみを取りのけられ、きれいなうすい綿になつて出てくるのがわかつた。さいごに別の機械にかけられると、うすい綿はいくつかの綿の列になり、それが太いひもになつて出てくる。

へやのなかには、綿のほこりでいっぱいだ。空気のきれいな針布工場とはだいぶうすがちがう。働いている人も女の人が大部分で、かんとくさんのような人だけが男の人だ

った。

つぎの建物は、太い綿のひもをだんだん細い糸にしていく所だ。たくさん機械がいつせいに動いている。これが紡績機械だなど、すぐ気づいた。正しくいうと、精紡機というのだそうだ。機械によつて、いろいろな太さにできること、ひとりの女の人でたくさん台数を受け持っていること、糸がきれいと、手ばやく機械の運轉をとめてなおしたりすることがわかった。糸をまきとる鋼鉄の心棒を錘とよび、この数で紡績工場の生産高をあらわすということだ。戦前には、わが



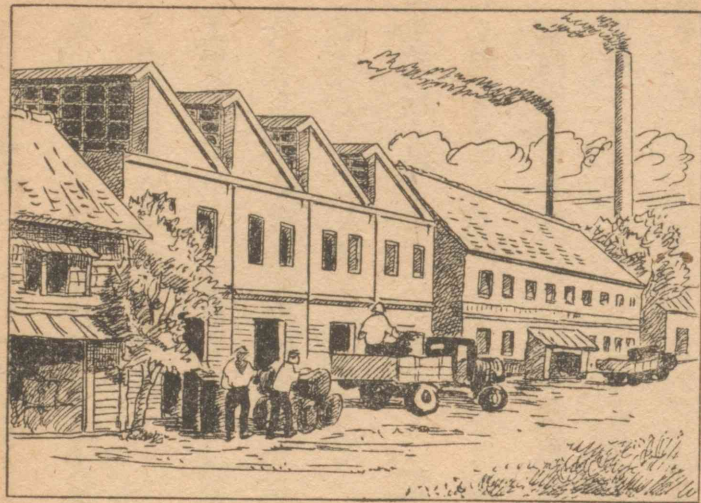
精紡機 ①糸巻 ②引伸し器 ③糸巻 ④綸具 ⑤錘

國で一二〇〇万錘が動いていた。現在は四〇〇〇万錘まで回復することがみとめられ、だ

んだんそれに近づいているということだ。

工場のなかがかんそうすると、糸がきれやすくなるので、戦争前は、いつもべやの湿度を六〇パーセントぐらいにしておく装置もあったが、戦争中にそれをとってしまい、てんじょうもはがしてしまったので、今は天然の湿度のままをやっているそうだ。

別の建物では、針布工場で見たとように、廣いはばの綿織物が織られていた。のこぎりはのようにぎざぎざになった屋根のガラス窓から光線がはいつてくるせいか、工場のなか



のこぎり屋根の工場

の明かるいのに感心した。しかしこまかい綿くずがもうもとたちこめて、空気はたい

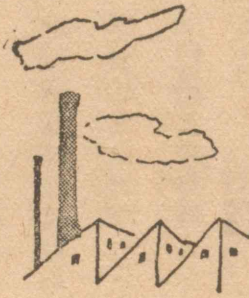
そうよごれている。マスクをつけている女の人もだいたい見える。このほこりではからだにわるいのではないですか、ときくと、これで病人はわりあい少ないんですよ、といわれた。植物性のほこりは、あまり人体に害がないとのことだが、このほこりをすいとるような装置がほしいと思った。

工場を出てから、工員さんたちの寄宿舎へ案内された。女の人だけでも千人以上いるとのことだ。寄宿舎は古いせいか、針布工場より一見してきたなく感じられ、ひとへやにはいつている人数も多いようだ。しかしろうかななどはよくふかれていて、わりあいに衛生的だと思った。たべものや、雑貨類の賣店や、美容室があつたり、テニスコートがいくつもならんでいたりしたのは感心した。

案内の人のお話では、同じ紡績工場でも、関西などには、最新式の設備をもつた大きな工場もできている。そこでは今でも、夏と冬でそれぞれ調節した空気を送つたり、湿度を一定にしたりすることをやっている。またほこりのたたないように、いろいろなくふうがほどこされ、ゆか板にもほこりがつかないために、さくらの木を使つたりしてい

るとのことだった。

きょうは日曜でふだんならお休みなのだが、電力の関係で休まなかったということだ。おかげで針布のゆくえもわかり、工場のようなすも二つをくらべることができたのでうれしかった。



## 六、学校給食

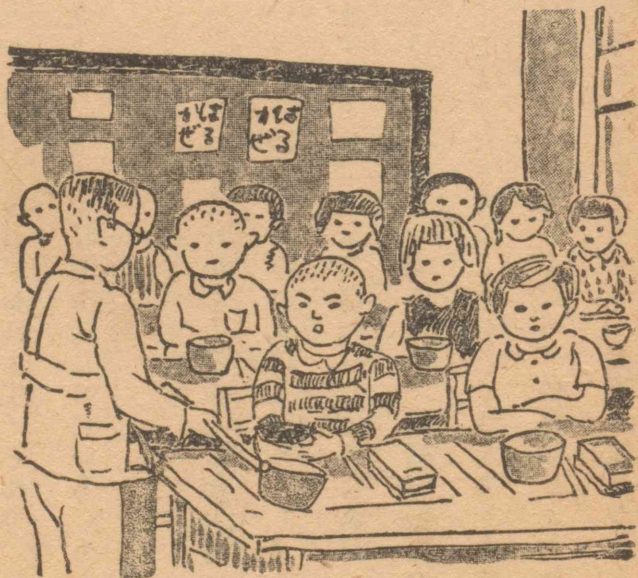
月 日

じゆん子

こんどみんなで学校給食のことをしらべました。はじめにみんなで話しあつてきめたしらべることがらは次のようなものでした。

- 一、学校給食はなぜ行われるようになったか。
  - 二、学校給食は日本じゆうどの学校でも行われているか。外國の学校ではどうか。
  - 三、学校給食の材料はどこからくるか。
  - 四、学校給食のこんだてはだれがきめるか。
  - 五、学校給食をつくるときには、どんなことに苦心するか。
  - 六、学校給食の費用はどのくらいか。
  - 七、学校給食の効果はどんなところにあらわれてきたか。
- そのしらべかたは先生のおすすりもあつて、給食係の小林先生、衛生室の松本先生、

調理人の山田さんに、教室にきていただいてお話をきいたり、しつもんをしたりすることにしました。先生がたもいそがしいので、手のあいたときに交代できてくださいようにおねがいしました。小林先生は、私たちの研究をたいそうよろこばれて、ほとんど毎回きてくださいました。費用のことをぞいて、だいたいわかりましたので、それをまとめてみました。



学校給食

学校給食が行われるようになった一つのわけは、そだちざかりの私たちの栄養が不足して、からだが弱くなるのをふせぐためです。戦争以來わが國の食糧は不足し、どこの家でも思うように食糧が手にはいりません。これはわが國だけではなく多くの外國でも

同じで、ことにヨーロッパ大陸の國々では日本以上に困つているところもあります。食糧が思うように手にはいらないと、栄養が不足して人々のからだが弱つてきます。こういうときには、そだちざかりの小さい子どもや、私たち小学校の生徒は、よく注意しないと、あとあとまでからだ弱くなつて、とりかえすのにほねがおれます。それで、おとうさんおかあさんはもちろん國じゅうの人たちが、とくに私たちのためにいろいろと心配して、学校で給食をしてくださるのです。

学校給食が行われるようになったもう一つのわけは、これからの日本人の食生活をもつとりつばなものにするためです。食事というものは昔からのしきたりがあつて、なかなかかわりにくいものです。白米でないとまずいとか、パンではたべたような気がしないとか、腹さえ一ぱいになれば副食物などどうでもよいとか考えたり、料理が衛生的でなかつたり、たいせつなじょうをだめにしてしまつたりすることがたくさんあります。たべられない食糧でも、じょうのあるものは、うまく料理してたべ、必要なじょうをかかさないうでとつていくためには、私たちのように小さいうちから、食事に氣をつけるこ

とがたいせつです。またみんなでなかよく楽しく食事をするしかたもおぼえる必要があります。学校給食では、そのような勉強もできるわけです。

それでは学校給食は、日本じゅうどここの小学校でも行われているかというところ、まださうではありません。まずさいしょに全國のすべての市の小学校で行われ、だんだんに町や村の学校でも行われるようになるそうです。まず都市のような食糧の困りかたのはげしいところから行われたわけです。外國でも学校給食はもつと以前から大規模に行われていて、政府が多額の費用を出しているところも多いそうです。くわしいことは先生がたもまだよくごぞんじないので、わかつたらまた教えてくださるといわれました。

学校給食の材料は、ずいぶんほうぼうからきています。脱脂粉乳たんぱくやジュースのようにはるばる海をこえてくるものもあります。今は全世界が食糧に困つていますが、少しでも樂な國の人たちは、自分たちの分をへらしてまで外國に送つていのです。「自分たちだけたくさんたべても、他の國の人々がたべられないで困つていなのを見てはうれしくない。」と考えているからだとききました。政府や都道府縣から給食用に配給されるも

の、市役所や学校で集めるものもあります。

給食用の燃料は今ではまきがおもなものです。これもずいぶん遠くからはこばれてきます。これも思うように手にはいらないので困っている学校が多いのですが、私たちの学校では、製材工場からおがくずをゆずってもらっているのです。どうにかつこうがつくそうです。

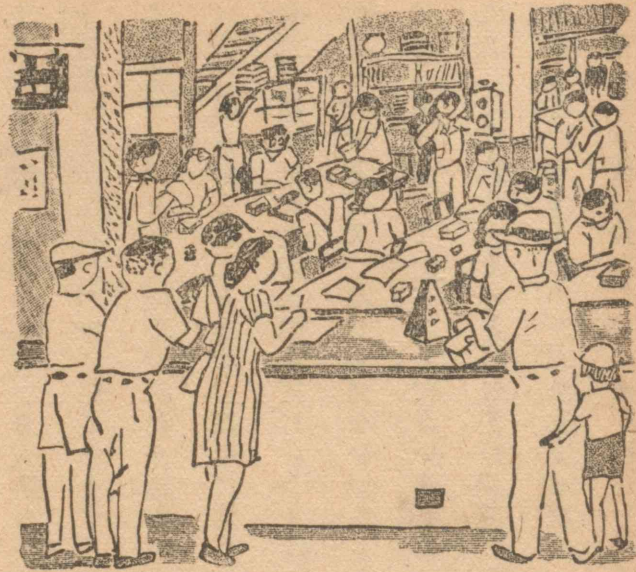
どんな材料をどれほど使つて、どのような料理をつくるかということ、これまで小林先生と松本先生と調理係の山田さんの三人が、相談してきめていましたが、これからは、両親と先生の会の給食部の委員長も参加してきめるそうです。現在おもな材料は脱脂粉乳・魚・野菜・ジュースで、これにいろいろほかの材料をくわえて、週四回以上、あたたかい副食物を給食するきまりになっており、その副食物は、ひとりあたり一回一八〇カロリー以上で、たんぱく質一五グラムをふくむようにしているのだそうです。私たちの学校では、火・水・金・土の四回、副食物を給食していただきます。こんだて表には、そのたびごとのカロリーが記入してありました。うしの骨やぶたの骨を使うと、

カロリーがそうとうふえることや、バターを入れると、カロリーがぐんとふえることなどがわかりました。

給食をつくるときに苦心するのは、材料をむだのないように、しかも清潔に料理すること、食器類を清潔に扱うこと、ちやうどあたたかいものがたべられるようにすることなどだそうです。これはとくに調理人の山田さんとその妹さんが苦心します。このふたりは、材料を受け取ったり、買ってきたり、料理したりします。給食がはじまったばかりのころには、おかあさんがたが四、五人ずつみえてつたわれましたが、四年以上は自分たちで分配しますし、三年以下には、六年生がてつだいにいくので、このころは、おかあさんがたはみえません。ただときどき、両親と先生の会の給食部の委員の人がてつだいにきてくださいます。そしてこんだてのよしあしを考えたり、材料を手に入れるのをせわしたりしてくださいます。

学校給食にかかる費用は、はじめ私たちの考えていたほどかんたんではなく、収入のほうでも私たちのおさめている給食費のほか、両親と先生の会からくるもの、市役所か

氏名		男女	学年 組	昭和 年 月 日生												歳
				4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3		
調査測定事項		調査測定月														
測定	1	体 重														
	2	身 長														
	3	胸 囲														
健康況	4	病 欠 日 数														
	5	顔 色														
	6	元 氣														
精神況	7	明 朗														
	8	落 付														
	9	偏 食														
衛生訓練	10	咀 嚼														
	11	食 前 の 手 洗														
	12	食 事 作 法														
	13	家 庭 食 が 改 善 された														
備 考	調査測定欄中 1.は毎月測定のこと 2,3.の測定は4月9月1月でよい。 9.は偏食状態を無.や.有.有.の三段階に区分記入すること 5,6,7,8,10,11,12,1,3は良(O),普通(Δ),否(x),の三種に区分記入のこと															



市役所の室内のようす

というのをつくつて、受持の先生がしらべてくださっています。そのうちの体重は、先生のきめられた時間に、じぶんたちではかりあつて書きこみます。

給食材料のことや、せわをしてくださっている人たちのことを、もつとよく知りたい

が元氣になつて、病氣で欠席する人も少なくなつたこと、食前に手を洗うために下級生でも手ぬぐいを忘れるものがなくなり、上級生では食事の際の清潔に注意するものがふえたこと、学校だけではなく家にかえつても食事のとき作法がよくなつてきたことなどが、今までにわかつている効果でしょうといわれました。学校では私たちひとりひとりについて、まえのページのような学校給食効果調査票

らくるもの、政府で出しているものなどがあり、支出のほうにも設備や給料にかかるもの、材料にかかるものなどいろいろあるので、委員を出して、小林先生からゆつくり教えていただくことになりました。

学校給食の効果については、衛生室の松本先生が主として話してくださいました。いっばんにだんだんすききらいが少なくなつてきて、ねぎやにんじんをたべる人がふえたこと、一、二年生など、ことに學校給食を楽しみにしていること、みんな



と、入口に案内係のおじさんがいて、係の人のいるへやを教えてくださいました。そのへやにはいると、大きなへやのなかに事務机がいっぱいあつて、たくさんの人たちが仕事をしていました。仕事をしている人のなかには、若い女の人もみえました。いくつもの卓上電話がさかにかつやくしていますし、お客さんらしい人が、あちらの机でも、こちらの机でも話をしていて、たいへん人が多く、またそうぞうしいのにおどろきました。

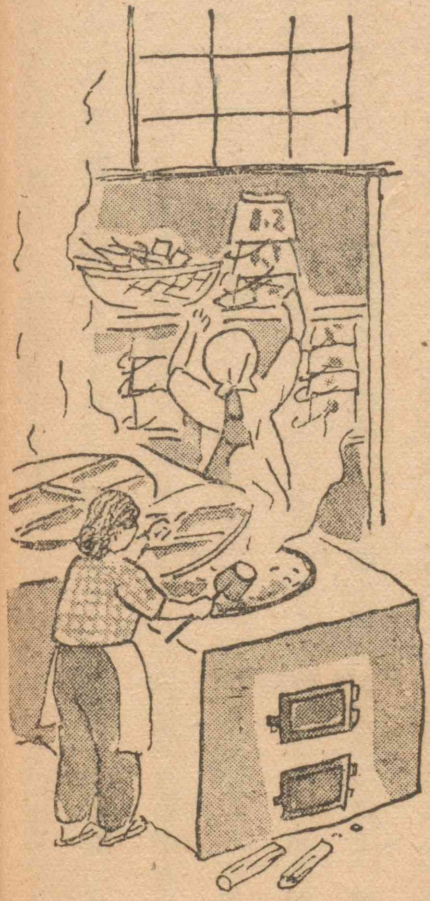
どの人もいそがしそうで、だれに話したらよいかとまよいましたが、思いきつて入口に近い机にいた女の人のそばにいきますと、こちらをむいて「おや、何ですか。」といわれました。そこで、きたわけをいいましたら、いちばん奥の大きい机にすわっている人のところへつれていってくださいました。やさしいお医者さんのような感じのする人でした。この人と、そのそばにすわっていた人とが、いろいろ私たちの質問に答えたり、お話をきかせてくださったりしました。

すべて学校給食のために使う物資を受け取ったり配給するには、取り扱ひの責任者を

きめてまちがいのないようにすること、市役所からはトラックで学校へとどけること、まきを手に入れるために、東北の諸縣などをまわつて頼むこと、物資の分配の際には、申しこみを受けたり、わりあてをしたり、通知をしたりするのに、非常にほねがおれ、いそがしいときには、二、三人がとまりこみで仕事をする事、今でも九時ごろまで、数人の人が残つて仕事をしていることなど、くわしく教えていただきました。市の学校給食委員会は、助役を委員長とし、経済部長・教育部長・衛生部長が副委員長で、関係の多い課長や、業者の代表・学者・先生たちの代表などが委員になつていて、とくに給食のせわをする係の人は、市役所では一二、三人であることもわかりました。

市役所の係の人たちは、学校給食をつづけていくための材料、その他の準備のほかに、学校給食が衛生的に行われることに、とくに努力をしているということを知りました。それは、傳染病が学校給食を通じてひろがつたり、給食による中毒が発生したりしないためと、日本人の食生活を、もつと清潔な衛生的なものにするための両方の目的からです。調理人や小使さんの検便を嚴重にしたり、食器や服装や手や指を清潔にしたり、は

いをとつたり、料理のくずやたべ残しのものの処分法をきめたりするのは、みなそのためです。私たちの三度三度の食事が、栄養の点からも、衛生の点からも、ほんとうにりっぱなものにならないければ、給食の効果はまだ十分にあげているとはいえないのだということがよくわかりました。



### 七、ビルディングのしらべ

月 日

道 男

ぼくのおとうさんのつとめていらつしやる会社の事務所も、このまえ見学した工場をもっている二つの会社の事務所も、みな同じビルディングのなかにある。となりの家のことでよくみえる弁護士さんの事務所も、同じビルディングのなかにあるそうだ。ぼくはおかあさんと買物にいったついでなどに、二、三回おとうさんの会社の事務所によつたことがあるが、こんど田中君たちが、先生といつしよに、このビルディングをしらべてきた報告をみて、びつくりしてしまった。

次のは田中君たち五人の報告だ。

—  
広い入口の右がわにならぶいくつものエレベーターのうち、ぼくたちは七、八階ゆきというのにのりました。

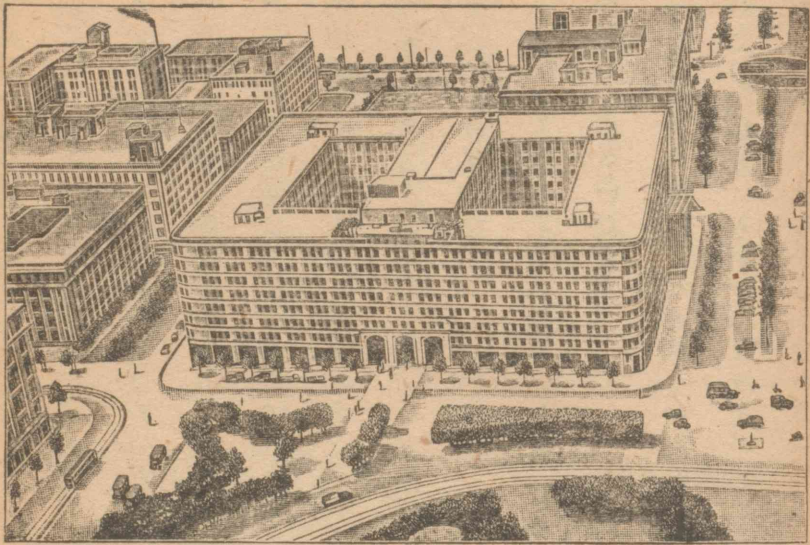
ビルのせわをしている事務所は、八階にありました。広い事務室です。たくさんの人たちが、机にむかつて事務をとっています。

先生「きょうは生徒たちが、ビルディングの勉強にがんばりました。おいそがしいところをすみませんが、いろいろ教えていただいたり、御案内をいただければ、生徒たちもどんなによろこぶことでしょう。」

係の人「先日はわざわざきていただいてすみませんでした。きょうは、用意してお待ちしていました。あとで常務からも話してもらおうことにしてありますから、どうかゆっくりしらべていってください。」

はじめにビルの見学です。へやを出て、ろうかを歩きました。その長さは、約一〇〇メートル、もう一方のは約八〇メートルだとのことです。長いのおどろきます。右がわにも、左がわにも、たくさんへやがあります。入口のドアのガラスには、どれも、〇〇会社、〇〇事務所などと書いてあります。これらは、みんな貸事務所です。

へやは各階に、約九九もあるので、へやをわかりやすくするため、階数を百の数字で



あるビルディング

あらわし、次の数で、へやの番号を示します。それで八階のへや番号は、八〇一番から八九九番まであるということです。

八階をひとまわりしてから、九階のエレベーター室を見ました。電氣の機械がたくさんならんでいて、エレベーターが動くたびに、ものすごい音をたてたり、火ばなをちらしたりします。停電などでこの機械がとまったら、たいへんだと思いました。

八階にもどつて、エレベーターで一階までおりました。一階にはいろいろなお店があります。どこも人でいっぱいです。

このビルがはじまつたときからあるとい

うお店へよりました。

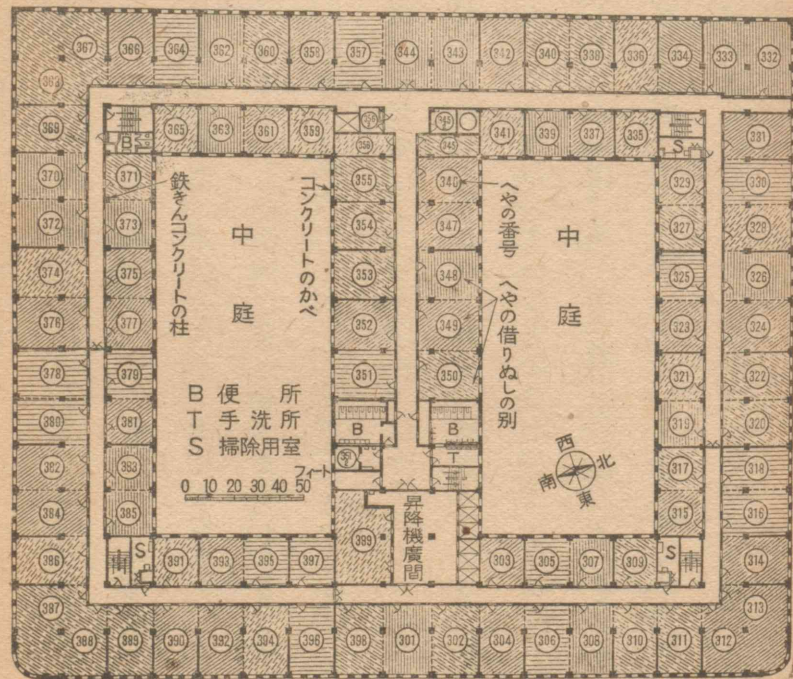
「ここにお店ができてから二五、六年になります。お店の大きさは二二坪、店員は二二人います。このビルの生活はたいそう便利です。このなかに、銀行や郵便局をはじめ、いろいろなお店や食堂があり、お医者さんまでいるので、たいがいの用がたせます。それに外との交通にもめぐまれています。いなかから出てくる人も、ビルの名さえいえば、番地がなくてもすぐわかります。へやはかぎをかけて帰れば、夜も心配はありません。電気もガスも水道もあつて、今どき、天國というのはこんな所をいうのでしよう。」と、いわれました。

「こういうなかで生活していたら、日あたりがわるくて、健康にさしつかえませんか。」と加藤さんがきいたら、

「はじめのうちは、ビル病とかなんとかいわれて、心配した人もありましたが、別にこれという病氣にもかかりません。しかしほこりはなかなか多いし、日あたりもたしかにわるいので、日中はこうたいで一時間ぐらいつつ、なるべく外を散歩するようにして

ます。私などは、ぼうしなしでくらししていますよ。」と、いわれました。

一階からさらに地下室へおりました。ここにも食料品店や大きな食堂があります。しかし、ここには事務所はなく、そのかわり、倉庫に利用しているへやが多いようです。ろうかのてんじょうには、太いのや細いのや、たくさんのパイプが取りつけてあります。このうちには、水道やガスや電話線や、だんぼう用



三階のへやわりの図



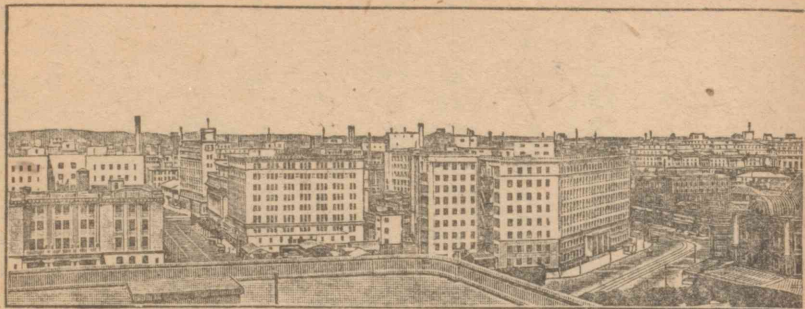
ビルの屋上からのながめ(1)

のパイプもあるとのことだ。

とあるへやへはいりました。ここは、このビルを夜中でも守る人たちのいるへやです。見れば、ラジオ兼用の拡声器や、電話の交換器、電気のスイッチなどのほか、火災受信器というめずらしい器械などもあります。大きな建物でもだいたいな所は、案外こんなところにあるのだと思いました。

火災受信器は、このビル以外、ほかのいくつかのビルや消防署ともれんらくされており、消火用の水も、おたがいパイプでつながっているとのことだ。水は地下からモーターでくみあげ、ふだんは雑用水に使っているそうです。

地下から歩いて、二階へ出ました。二階にもいろいろなお店ができていて、なかには外人むきのおみやげを賣るきれいなお店もあります。



ビルの屋上からのながめ(2)

三階からは、もうお店はなく、どこもみな貸事務所ばかりでした。じょうひんな感じのする三階の目医者さんのおへや、溫度計のかけてある五階の建築屋さんのおへや、ビルの人たちの休む八階の日本間などもみせてもらいました。

どこを歩いて、あいているへやはありません。へやのあくということはほとんどないほどよく利用され、全国に取引のある大きな会社や銀行の事務所が、このなかに集まっています。ここはいわば、大都市の心臓部ともいうべき所だとのお話しに、なるほどと思いました。

二

八階の一室では、このビルを經營する会社の常務さんが、私たちを待つていられました。そうしていろいろなことを

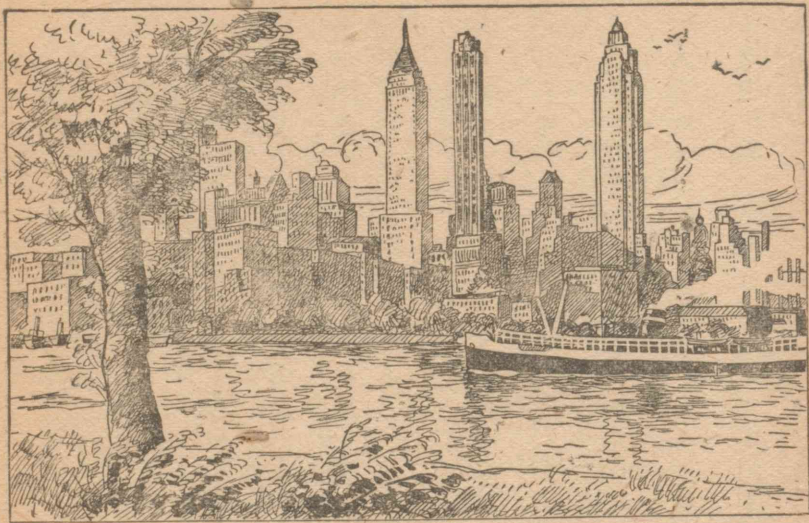
教えていただきました。あらましを書くと、次のようなことです。

「ビルディング」というのは、つみあげられた高い建物をいう。しかしひと口にビルディングといつても、いくつかの種類に分けられる。たとえば、この建物のように、オフィス（事務所）の多いビルディングのほかに、百貨店になつてゐるもの、ホテルやアパートになつてゐるもの、めずらしいのでは自動車を入れるビルディングさえある。

このビルは、大正一二年の震災の年にできた。工事は当時五年間もかかるであろうといわれたのが、わずか二年あまりでできてしまった。それは、アメリカの会社が工事を引き受けて、能率のあがる方法をとつたためだった。

この建物は、延人員一五万以上の力によつてたてられた。そうして何千本というアメリカ松、六千トン以上の鉄材、一万数千トンのセメント、そのほか、砂やじりや、タイルやれんがなどがたくさん使われた。

建物の高さは、地上約一一〇フィート（約三三・四メートル）地下一〇フィート、ろうかの総延長は四キロあまりになる。東洋ではいちばん大きい。しかし高さでいうと、ア



ニューヨークの高い建物のむれ

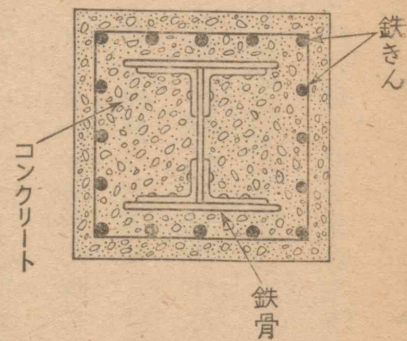
メリカにはとてもおよばない。ニューヨークのものはとくに有名だ。そこは地盤がたい岩石からできているので、高い建物をたてることができる。わが國は地震の多い國でもあるから、建物は法律で高さを制限されている。

近代的なビルディングのはじまりは、一八八三年で、アメリカのシカゴの町に、一〇階のものがたてられた。ちょうど建物の柱になるじょうぶな鋼鉄が発明されたことが役に立った。エレベーターができたのも、そのころのことだ。ビルディングの柱は略図のように鉄骨、鉄きんコンクリートでつ

くられている。

このビルでは、晝間と夜間とで人口がたいそうちがう。晝はふだん約七千ぐらいの人が事務をとつているが、夜はわずか五〇人ぐらいになる。これはオ・フィス・ビルの特色だ。日中は、ふつう約一〇万人の人が出はいりする。」というようなことでした。

柱の平面図



ビルの柱

田中君たちの報告をみて、ぼくの感心したのは、ビルのエレベーター室と地下室のことだ。しらべようという気がなくては、何度いつてみても、そういうだいじな、そしておもしろい場所のことなど、知らないですごしてしまふからだ。この報告をみて、ぼくはなんだかビルディングというものは、ただの建物というより、機関室やブリッジのある大きな汽船のようなものだ、という気がした。

## 八、運動会

月 日

じゅん子

夕ごはんのあと、おとうさんは、「きょうはきみたちによいものをみせてあげよう。」とおっしゃって、一通の手紙をお出しになりました。封筒のあて名には、安田先生おんもとへと書いてありました。おとうさんは、はじめにその手紙について説明をされました。安田先生というのは、おとうさんがまえにお教えになったことのある若い女の先生で、しかもちょうど、おとうさんの中学校といつしよにある小学校につとめていられるかたです。家にも二、三回みえたことがあります。手紙はその安田先生にあてて、受持の五年生のおかあさんからとどけられたものだそうです。

私は、どうしておとうさんがそのような手紙をもつてこられたのか、とぶしぎに思いました。おとうさんはかまわず、かず子さんに、みんなによんできかせなさいといわれました。うちじゅうのものがきき耳をたてました。そのお手紙は次のとおりです。



安田先生

本日はほんとうにありがとうございました。秋ばれのよい一日を、うちじゅうのものが、楽しく意義深くすごさせていただけました。子どもさんたちのいっしょうけんめいな努力、それをみちびいてくださった先生がたのおほねおりを思うかべると、胸がせまつてきます。子どもたちは、もうすっかりまんぞくしてぐつすりねています。さつと楽しかった運動会の夢をみていることと、毎日追わう。焼けあとのバラックに、毎日毎日追われるようにして生活している私たちに、

きょうの運動会は心からの楽しみをあたえてくれました。

ふたりも子どもがお世話になつていたので、運動会には毎年おじやまさせていただいておりますが、ことしほど強い感銘を受けたことはありません。

もう九月の末ごろから、たびたび子どもたちは運動会のことを話しておりました。たみ子は、正男の運動服までぬつてくれました。はちまきや運動ぼうや運動ぐつも、自分たちであらったりつくろったりして、なるべく自分たちだけで準備をしようとしておりました。これはさいしょに感心したことの一つでございます。だんだんと子どもたちが、私たちを楽しませなぐさめるための運動会を計画していることがわかり、時代のかわつてきたことをつくづく感じました。私どものころには、運動会といえば、母に夜なべで晴れ着をつくつてもらったり、父にいろいろ新しいものを買ってもらったりしたものでしたのに、時代のちがいはいいながら、子どもたちもたくましくなってきたものだと、主人と話したことでございます。

間食物の少ないおりから、子どもたちが、運動会にはおべんとう以外のたべものも



つていかないことにしたと申しましたときは、ほつといたしました。土地がら商賣のおうちが多いので、昨年など、思いがけないほど高價なおかしやくだものをおもたせになり、私どもの家などでは、子どもがうらやましがりはしないかと、心配するほどでございましたが、ことしは、おひるに両親と先生の会の委員のかたがたのおせわで、間食をいただけることになって安心いたしました。子どもたちも、かえつて、どんなものがいいただけるかと思つて、楽しみにしておりましたし、じつさい、心のこもつた衛生的にもよく考えていただいたものばかりで、おおよろこびでございました。

たべものことばかりで、お笑いになるかもしれないませんが、あのいそがしい運動会に、子どもたちだけでなく五、六年生の家族のものにまで、副食物を出してくださったことは、なんとお礼を申しあげてよいかわかりません。主食だけのおべんとうを運動会にもたせてやつて、自分たちの副食物までつくつていただけるといふようなことは、なんだか夢のような氣さえいたしました。が、あのように手ぎわよく会食させていただいた今は、ただ感嘆し、先生がた、調理人のかた、委員のかたがたはもちろん、一心にせわしてく

れていた六年のお子さんたちに、感謝するばかりでございます。

校門のあたりに、あまりおかげさなかざりがなく、歓迎のことばを書いたものや、はつきりとした会場の案内図だけがかかかってあり、先生がたが私たちをむかえてくださったつて、ゆつくりごあいさつできたことも、うれしいことでもございました。義男など、先生が名まえをよんであいさつしてくださったことを、何度も何度もふしぎがたり、よろこんだりしておりました。

会場をつくられるのにも、ずいぶんご苦心だったこととおさつしします。あとかたづけのときと同じように、中学の生徒さんもおてつだいくださつたのでしょうか。子どもたちは、まえのむしろの席で、私たちはうしろのいすの席で見物させていただけたことも、つごうのよいことでもございました。それに同じ学級の家族のものをかためていただいたので、何かと親しく、ゆずりあいも自然に行われてうれしゅうございました。子どもたちが、「いくのいかないの、人数は？」と、やかましいくらいいたしかめていたわけもよくわかりました。せつたいの生徒さんたちが、小さい子どもたちを便所や湯飲所につ

れていつたり、また、はじまるまえに、紙しばいをみせたりして楽しませてくださったこともうれしいこととございます。

場内のアナウンスをはじめとし、司会や案内などが、ほとんど生徒さんたちの手で行われたことは、私たちをおどろかせ、また感心させました。このごろ、目だつてたみ子たちのことばやすることが、はきはきしてきたとは思っておりましたが、あのようなことさえできるようになったかと思うと、思わず涙がわいてまいります。



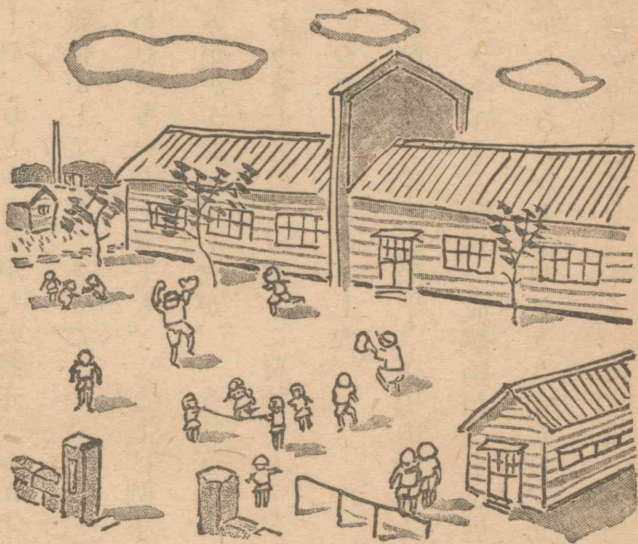
場内アナウンス

開会のはじめに行われた全校合唱も、楽しいものでございました。毎朝、やっとおいでになる全校合唱も、あのように美しく楽しいものなのでございました。このごろ学区の子どもさんたちが、流行歌など口ずさまなくなつて、あのような唱歌やどうようを、幼い子どもまでがまねて歌うようになってきたわけが、よくわかりました。

プログラムは、どれも興味深いものばかりでしたが、一年生のリトミックや二年生のゆうぎはかわいらしく、三年生のつな引き、四年生の騎馬戦などはかつばつでいさましく、五、六年生の競技やダンスは、統制がよくとれていて感心しました。先生がたのりーや、おとうさんがたの競走、おかあさんがたの競走なども、子どもにかえつたような氣持がしておもしろうございました。家に帰つてから、子どもたちにほめられたり、笑われたりいたしました。ことしは例年にくらべて、競走がわりあいになく、プログラムがかんたんでしたが、どういふお考えだったのでございましょうか。でも二時半におわりましたので、帰りに買物をし、夕飯のしたくもゆつくりとできまして、たいへんよいつごうでございました。

晝食後、たみ子の教室も、正男の教室も、拜見させていただきましたが、図画工作をはじめ、さまざまの学科の成績物が美しく展覧されていて、参考になりました。たみ子や正男からいろいろと説明をききまして、先生がたの御苦心をおさつしし、いよいよ感謝するばかりでございました。このように子どもたちが、元氣にゆたかな活動をするようになりましたことは、これからの日本のためにどんなにたのしいことかわかりません。

去年移植された、いけがきのかしも大きくなつて、いちようも美しくいろづき、学校



学校の跡

のみなさまのごたんせいのみくも、秋の日を受けて咲きほこつていました。私も、学校のは、学校のそばをとるたびに、学校が私たちの心にうるおいをあたえてくださつて、いることを感じておりましたが、さようはまた、あの木や草にもおとらず、私どもの子どもたちをすくすくとそだてていただいているありさまを見て、ほんとうに感謝の念でいっぱいでございます。主人もくれぐれもよろしくと申しま

した。

学校を中心に、親も子もいよいよひとつ心にむすびついていくことをいのりつつ、お

礼のごあいさつをおわります。学校のみなさまがたにも、どうぞよろしく、先生から私どものお礼の心持をおつたえくださいませ。

かず子さんはだんだん読んでいくうちに、少し声がふるえてきました。読みおわると、みんなちよつと、しんとしました。道男さんがいちばんさきに「えらいなあ。」といいました。それから、そのときの運動会のように、みんながおとうさんにおたずねしたり、おじさんたちの子どもたちのときの運動会の話が出たりして、にぎわいました。



## 九、街頭録音

月 日

道 男

きのうの午後、駅のそばで街頭録音があつたので、敬一さんと見にいって。小さなあき地に、人が二、三百人集まっていた。となりのビルの二階に録音する機械がすえつけである。ここでは録音するだけでなく、発言する人の声が、集まっている人たちによくきこえるようなくふうがしてある。

あき地には、スピーカーが四つ五つあつて、話している人の姿は見えなくても、声はよくきこえる。あき地のまんなかに低い台があつて、その上に、放送局の人が三人立っていた。黒い野球ぼうをかぶり、街頭録音班という腕章をつけている。そのなかのひとりが、長いコードのついたマイクロフォンを、話す人の口のそばにあてがい、アナウンサーが話しを進めている。

ぼくたちがいったときは、もうはじまっていたので、人のうしろの方になつてしまつ



街頭録音のスケッチ

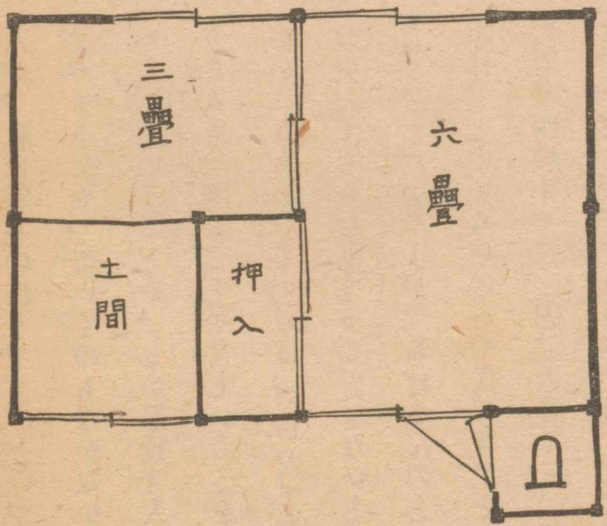
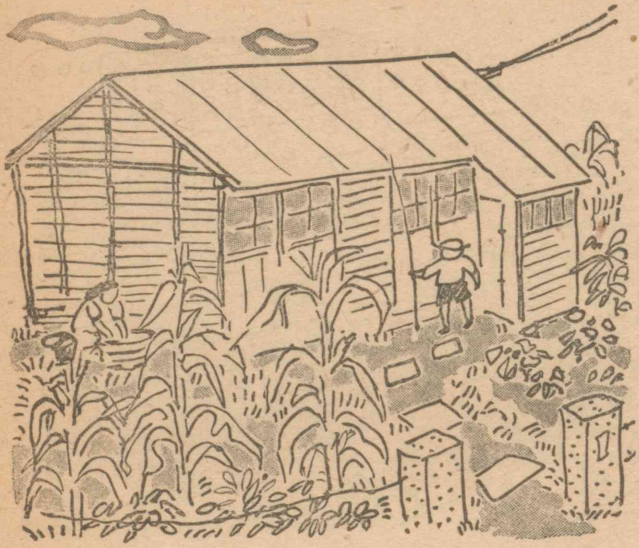
て、話している人の顔がみえなかつた。だんだん人をおしわけてなかにはいってみると、話したいという人が、台の近くにならんでいた。集まった人たちの意見に対して、政府の考えや、仕事を説明するために、戦災復興院の人もみえている。この人はなかおれをかぶり、レインコートをきていて、少しふとつてはいるが、やさしい声の人だった。気がついてみると、集まっている人たちは、老人も若い人も、男も女もあり、服装もさまざまだが、大学生がたくさんいた。また敬一さんのような中学の生徒もかなりいた。小学生は、ふたりばかりへいの上のぼつて見ているのがいただけだった。

はじめ、家をたてるにはどうしたらよいか、ということ

を中心におもいおもいの意見が出た。資金をどうするか、資材しざいをどうするか、土地をどうするか、というようなことが問題になった。家の焼けない人から、税金ぜい金をとつたらどうか、という人もあり、家は焼けなくても、商賣しょうばいのなりたたない人もあると、それに反対する人もあり、三角くじや宝くじのように、家のあたるくじをつくつたらどうか、というえかきらしい人の話もあつた。家はあたらなければ、その家をつくる資金のあたるくじは、都道府縣とどうふけんで実施じししてもよいことになっていると、復興院ふくげいゐんの人が答えた。しかし結局は、政府の手で安くてよい住宅、ことにアパート式の共同住宅をたててほしいという希望きぼうや、大邸宅たいていたくやあいている建物をもつと開放するのがよい、という意見が強かつた。長いひげのおじいさんが、木や竹を少し使つて、土で家をつくつたらよいのだといつたが、少しこつけないおじいさんで、きいてる人はおとぎ話おとぎばなしのようだと、笑つた。ぼくは、おじいさんの考えも研究してみたらどうかと思つた。

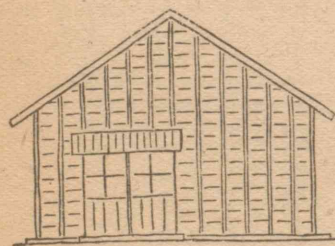
次には貸間かひまについての意見をいうように、アナウンサーがたのんだ。中年のおばさんが、まえに政府が大住宅の開放を強く要求したとき、それではといつて借してくれた家主かみし

が、このごろ政府があまりやかましくいわないので、へやを借しておくのがいやになつて、理由をつけて追いたてているのだと、悲しそうに話した。若い男の人が、大きな住宅たくしやうやあいている事務所じむしょなどを使えば、もつと貸間かひまができるといつた。元氣げんきのよいおばさ

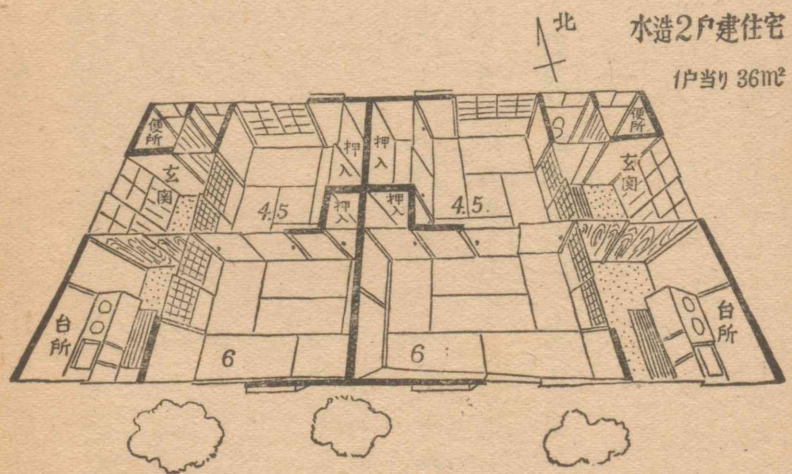
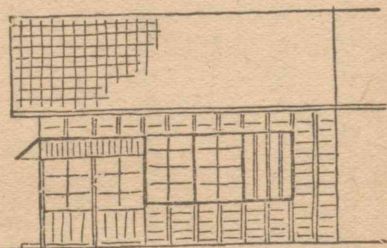


住宅たくしやう 簡易かんい 緊急きんきゅう 應おう

西面図

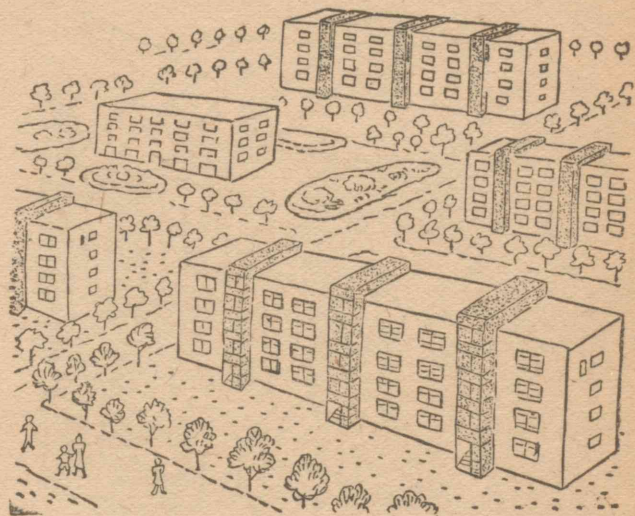


南面図



戦災復興院設計の國民住宅

といて感心していた。  
話は自然にまえにもどつて、住宅をたてることや、貸間をつくることになつたが、そのうち復興院の人に、ひとりあたりどのくらいの廣さを目標にして家をつくるかという



鉄きんコンクリート共同住宅

んが、私は家主のほうですがといて、アパートをやつていくのもなかなかたいへんだということや、しかし貸す人も借りる人も、困ることや苦しいことをおたがいにうちあけていけば、おいたてたり、おいたてられたりするのではないと話した。アナウンサーが、おぼさんのところでは、どのくらいのへや代ですかときいたら、四疊半で二〇円、六疊で三〇円で、と答えた。だれかが、なるほど安い

質問がでたところ、おとなひとり二疊半から三疊であると言明された。たとえば、現在わが國の一家族を平均五名とみつもつて、六疊、四疊半に台所押入押し入れなどをつけたくらいのも、材料もせつやくでき住みごこちもよいという家や、コンクリートなどのもえないアパートを、多くたてようとしているということであつた。ぼくは、あまりそまつな家ばかりたてて、あとで困らないかと考えた。

時間がなくなつてくるにつれて、アナウンサーは、だいたいそぎはじめた。話す人もなるべく同じことをいわないようにし、きいている人も、「だっせん、だっせん」とか「かんたん、かんたん」とかいつて、なるべくたくさんの人からちがつた意見をきこうとしていた。資材の輸送に努力せよという人や、政府の計画を確実に実行してもらいたいという人などがあつた。

街頭録音は、ただおもしろいからやるのではなく、たいせつなことがらについて、できるだけいろいろな人の意見をきいて、みんなの生活をよくしていくためのものだから、じょうずに話しをする必要があることがわかつた。

さいごに責任者から、貿易が再開されても、ほかに輸入しなければならぬ物資がたぐさんあるので、住宅をたてることは、決して容易やすにはならないということ、統制に反して建築をすることが、政府の計画を実施する場合大きな障害しょうがいであるということの説明があり、アナウンサーのお礼のあいさつがあつて録音がおわつた。きいていた人たちもみな拍手はっしゅして解散した。

解散後も二、三〇人の人が、復興院の人やアナウンサーをとりまいて、質問をしたり、意見をいつたり、たのみごとをしたりしていた。放送局の人が、マイクや拡声器をとりかたづけても、やはりその人たちは熱心で帰らなかつた。

ぼくは、放送局の人に、この録音は、いつ放送されるかときいてみた。係の人はわざわざほかの人にききあわせて、たぶん來週の木曜の夜になるはずだと教えてくれた。敬一さんは、中央の台のそばにあつた大きなスピーカーみたいなのが、何をすることも、か、ときいた。これは集音機くしゅんきといつて、きき手の笑い声や拍手など、その場のありさまを示す音をおさめるものであつた。

敬一さんの話では、放送局の人たちは、きょう録音したものを、うまくへんしゅうして、放送するのだそうだ。街頭録音の放送をきいていると、すぐその場所から放送しているような感じがするが、係の人はさぞ苦心をすることだろう。

家に帰ってから、年鑑で住宅難のことをしらべてみたら、厚生省では、次のような推定をしていると書いてあった。

戦災でなくなった住宅は、被害建物二四六万戸のうち、二一〇万戸、強制疎開でなくなったものは、取りこわし建物六一万戸のうち、五五万戸、両方をあわせると、二六五万戸で、戦前のわが國の住宅総数をだいたい一四〇〇万戸とすれば、戦争による減少だけを考えても、現在は一一三五万戸で、戦前の八〇パーセントしかない。

また都市だけをとってみると、戦前六〇〇万戸が、現在は二三五万戸になり、五六パーセントしか残っていないことになる。

このほか、引きあげてきた人たちのために六七万戸、今後一〇ケ年間に、世帯が増加するために入用になるものが一〇万戸、戦争中、建設をみあわせたために必要になっっているもの一一八万戸、今後一〇ケ年間に使用が不可能になるもの一〇万戸（風水害によるもの四万戸、火災によるもの一万戸、自然にくさってしまふもの五万戸）があつて、住宅難をいよいよひどくしている。

これに対して戦災死等のため需要の減少する分は、三〇万戸にすぎないそうである。このことをしらべてみたり、ひとりあたりの住宅の廣さなどをきいたりすると、ぼくたちの家が、満員電車になつているのもあたりまえのような気がした。





## 一〇、銀行の仕事

月 日

じゆん子

貯蓄奨励の週間なので、きょう、私たち五、六年生は、銀行の人から、銀行や貯蓄についての話をうかがいました。なかなかむずかしいお話でしたが、原稿をもつておいでのようでしたので、先生にいつて、それを写させていただくことをおねがいましたら、こころよく貸してくださいました。たいそうきちんとした字で、はつきりと書いてありました。よくわからないところは、おじさんにおたずねして書きうつしてみました。

94

日本は元來、資源のたいそう少ない國であつたところへ、敗戦の結果、方々の領土を失い、國土がせまくなつた上に、人口はいよいよまってきました。したがつて、このままでいくと、日本人はごくまずしい生活をしていくことさえもむずかしくなります。これをさけるには、炭坑の設備をよくしたり、こわれた工場を修理したり、鉄道や港をな

おしたり、住宅をつくつたり、新しい産業をおこしたりしなければなりません。このよ  
うなことは、みなさんもきいたり考えたりしたことがあるでしょう。もちろん戦後の復  
興のためには、外國からおかねや資材を借りることも必要ですが、まず私たち日本人の  
力で復興をはじめなければなりません。この復興をはじめるといふことに、銀行は非常  
に大きな役わりをもつています。

それはどんな役わりでしょうか。

みなさんは銀行がどんな仕事をしている所か知っていますか。おとうさんやおかあさ  
んが銀行にいつておかねを預けたり、引き出したりすることぐらいは知っていますでしょ  
う。たしかに銀行はみなさんの家のおかねを預かる仕事をしています。この仕事は郵便  
局でもしていますね。

95

みなさんは、その預けたおかねがどこにいくか知っていますか。全部を銀行の大きな  
金庫のなかにいれておくのだと思つている人はありませんか。金庫のなかにしまつてお  
いて、預けた人が引き出しにきたとき、それを出してあげるのだつたら、銀行は預かり

料をもらつてもよいわけではありませんか。そういう銀行があつたら、みなさんのおと  
うさんやおかあさんはそこにおかねを預けるでしょうか。

ところがどこの銀行も、預かつたおかねに利子しというおかねをつけておかせしします。  
だから預かり料をとる銀行におかねを預ける人はありません。どうして銀行は、おかね  
を預かつた上に、利子をつけたりするのでしょう。これはおかねを、またほかの人に貸  
すという仕事をしているからです。

銀行はみなさんのおとうさんやおかあさんから、おかねを借りて借り賃かをはらいます。  
その借り賃が利子しです。みなさんのおとうさんやおかあさんは、銀行におかねを貸した  
とは思わないで、預けたと思つてゐるわけです。その預けたおかね、すなわち銀行が借  
りたおかねを、銀行はおかねのいる人に、借り賃よりもつと高い貸し賃をとつて貸すの  
です。その貸し賃もやはり利子しといひます。だから借りるときの利子と、貸すときの利  
子とはちがうわけです。そのちがいが銀行のもうけになり、そこから銀行を經營する費  
用も出てくるのです。

みなさんの家から預かつたおかねは、一軒一軒の分としては、あるいはごくわずかな  
場合もあります。しかしそれが集まると、なかなかたいしたものになります。それはち  
ょうど、ちよろちよろ流れる小川が集まると、汽船のかよう大きな川にもなるようなも  
のです。みなさんの家からだけでなく、商店や会社や工場などからも、さしあたり使わ  
ないおかねを預かります。こうして預かつたおかねを、おかねのいる人や会社に貸しま  
す。今おかねの入用なのは、復興の仕事をしようとしてゐる人々や会社です。もちろん  
銀行は、そのうちでも、將來おかねをかえすみこみのある、たしかな仕事をするところ  
だけに貸します。このように銀行は、日本の復興に必要なおかねを集めて出すという役  
わりをもつてゐるのです。

ある工場は銀行から借りたおかねで、原料や燃料を買い入れ、肥料をつくつて農家に  
賣り、だじな食糧の増産をたすけます。また他の工場では、銀行から借りたおかねで、  
機械をそなえついたり、工員さんの給料をはらつたりして、織物をつくり、見返り物資  
として外國に輸出しゅつします。

ある会社では銀行から借りたおかねで、電車や自動車をなおしたりつくったりして、交通を便利にするでしょう。

銀行で集めるおかねが多くなり、それがうまく使われることは、日本の復興のために、きわめてだいじなことです。

銀行がみなさんの家のおかねを預かることは、そのような仕事のもとでをつくるというほかに、まだまだ大きな意味のあることを知っていますか。

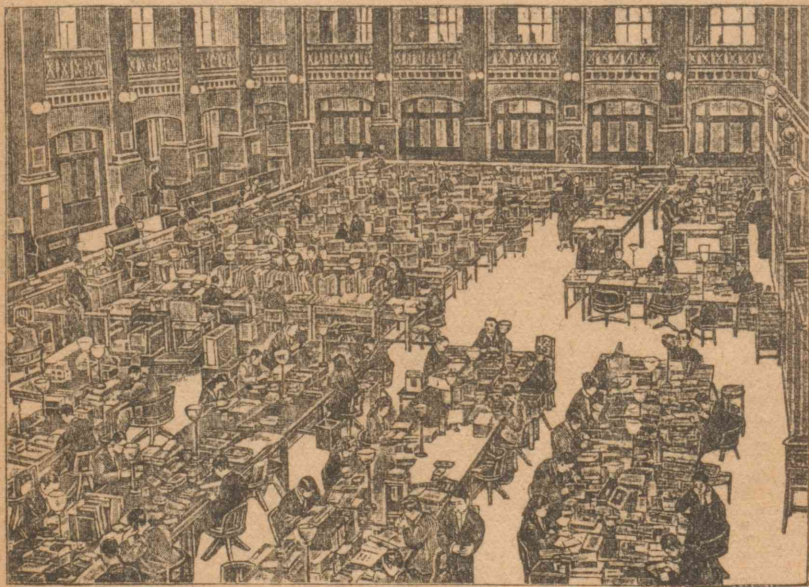
みんながおかねをもっていると、つい品物を買いたくなります。人々が今すぐいり用でもないものを買うようになっては、今の日本のように物のできかたが少ないときには、たださえたりない品物がいつそうなくなってしまう。品物がなくなってくれば、いくら高くてもほしいという人がでてきて、物のねだんがあがってしまいます。そのようにして物のねだんがむやみにあがると、どんなに困るかは、みなさんもごんじのことでしょう。

このように、銀行におかねを預けるといことは、日本の復興に必要なおかねを集め

ることにもなり、物のねだんをむやみにあげない一つの方法にもなるのです。なぜ貯蓄が奨励されているか、わかつていただけたでしょうか。

銀行はおかねを預かったり貸したりするほかに、おかねを送ったり、預金者のかわりにおかねをはらったりする仕事もします。だから商賣をしている家では、たいていどこかの銀行を利用しています。

おかねを預かることでは、郵便局も銀行と同じですが、どういう点がちがうかわかりますか。郵便局のほうは、



大きな銀行の内部

政府でまとめて預かり、ふつうの銀行のほうは、民間で経営し、おもに民間の人や会社におかねを貸すのです。それに郵便局は、通信関係の仕事があるので、こみいったおかねのことや、あまり大きな金額のものはあつかいません。しかし郵便局に預けたものは、証明さえあればこの郵便局でも引き出せることが強みです。

銀行には預金係や出納係のほか、貸付係・爲替係など、たくさん係があります。各係がみなよく責任をはたすようにしないと、貸金もどつてきても、そのおかねの利用方法がなかつたり、たしかでない仕事におかねを貸しすぎて、おかねがもどつてこなかつたりします。

事務の上でも、各係でまちがいのないように注意しないと、銀行の仕事はうまくはこびません。野球でもひとりがわるい球を投げると、チーム全体がくずれます。銀行でひとりがまちがった書類をつくれれば、その書類のまわるところでは、帳面がみなまちがつてしまいます。そうなると計算があわないので、その日の仕事がおわらないことになります。このような計算は、必ずその日のうちにびつたりとあうところまでやらなければ

ば、翌日になって困るので、九時、一〇時になつても、関係のものが総がかりでしらべます。だから、いそがしければいそがしいほど、みんないっしょうけんめいになつて、一

字のあやまりもないように注意します。

銀行につとめているものが、計算がじょうずで、字も正しくきれいなのは、あやまりを少なくするために、一心にれんしゅうするからです。

店がしまつてから計算をあわせ、おかねと帳面を金庫におさめてから帰るので、夜でも、だれか、金庫のある所にとまつていて、みなさんからの預かりものを守っています。



江戸時代の質屋

おじさんは、このほかに、日本銀行や勸業銀行・興業銀行のこと、勸業銀行では、三角くじや宝くじなどを賣り出しておかねを集めていること、なども話してくださいました。



## 一一、都市の氣分

月 日

道 男

ゆうべはあちこちにたった年の市のことから昔ばなしに花がさき、東京・京都・大阪をはじめとし、全国各所の都市の氣分について、おとうさんたちが話しあわれた。ぼくたちはきき役だったが、たいそうおもしろかった。

「おじさんがはじめて東京にでたときには、山の手にも、下町にも、江戸のなごりがたくさんあつた。山の手にはところどころまだ昔の武家屋敷も残っていて、そこに住んでいる人には、やはりじょうひんな、もの靜かなところがあつた。下町の店には、のれんをかけた紙屋とか呉服屋、油屋などがならび、そば屋や、うなぎ屋の店のようすも、なんとなくふるめかしくておもしろかった。

そのころはまだ百貨店というようなものはなく、今の百貨店はみな呉服店だった。呉服店といっても大きな二階建て、げそくで、はきものをかえて、店内をまわつたもので、

呉服のほかにも、いろいろな商品を賣っていたし、休憩室や子供の遊ぶへやのあるものなどもあった。そのほかに勸工場かんこうじょうといって、たくさんのお店があつまって、いろいろな品物を賣っている所があった。これが今の百貨店のようなものだった。一方の入口からはいって、両側の店をみながらだんだん進んでいくと、上の方へあがり、結局別の出口へ出てしまうというわけで、今の百貨店とはちがつて、ちよつと博覧会はくらんかいの会場のようだった。おじさんはよく、上野の勸工場（博品館とよばれていた）を散歩したものだ。

下町では人間のいせいがよく、動作もきびきびしていた。お祭のときや年の市としのいちのときなど、町じゆうまちじゆうに活気がみちあふれていたものだ。

よく神田明神かんだあきみじんの年の市としのいちにいったが、今の露店ろくてんなどよりはずつと大きな小屋こやがけがいくつもできていて、きれいな羽子板はねいとうが何十、何百とならべてあったことをおぼえている。

正月のおかざりを賣る小屋も大きなものだった。みせものも出だし、露天商人あふちうしやも何町なんちゆうというほど店をならべて、そのあいまいまに、がまの油あぶらうりなんかも出ていた。

電燈やアセチレン燈はまひるのようだし、あちこちでたき火はしているし、商人は商



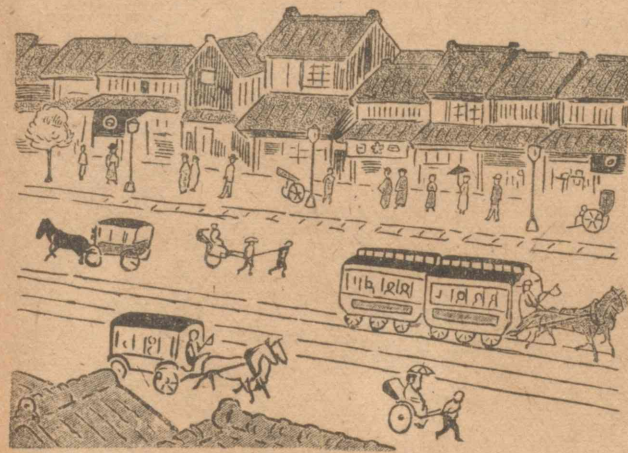
江戸（日本橋）

人で、おもしろおかしく、お客をひきよせ、品物を賣ろうとするし、なんともいきおいのよいものだった。寒い夜風のかだのに、たくさんの人が店をひやかして、楽しそうに歩いている。なるほどこれがいせいをきそう江戸の気分かとすつかり感心したこともあったが、おかげでゆだんをして、すりにさいふをとられるという大失敗もやった。

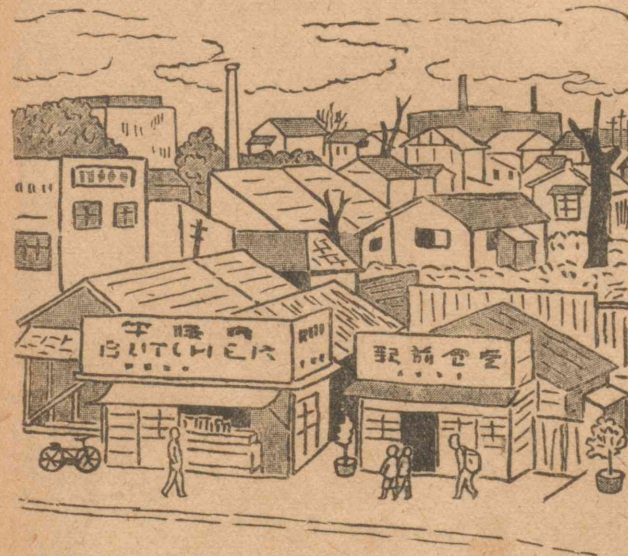
さいたときによくわかった。ことばはあらつぽいけれど、あつさりしていて、だれにむかつて同じような氣持で、要領ようりやうよく教えてくれる。さすがにこれは江戸っ子だと思つた。このごろ下町にいつてみると、震災や戦災でようすがすつかりかわつていて、さび

しい気がする。

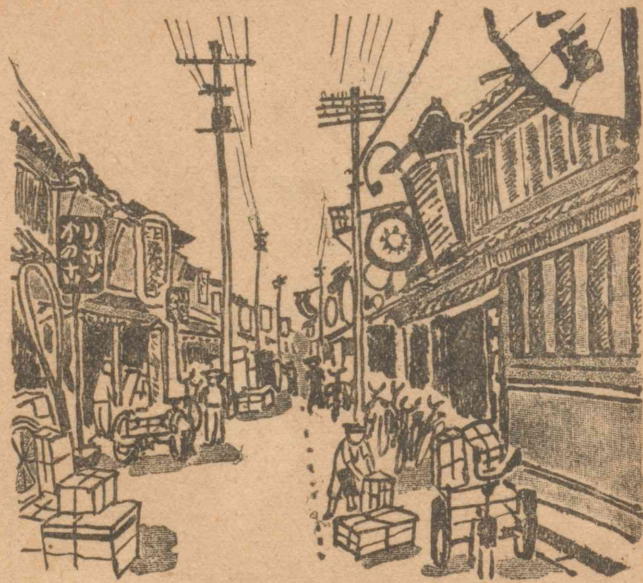
しかし、私は東京には、また何か新しい気分が生まれてきているように思う。電車のなかなどは、人間のかざりけのない心持がそのままあらわれるものだが、みんなで助け



明治の東京(京橋)



現在の東京(高田馬場)



昔の大阪(船場)

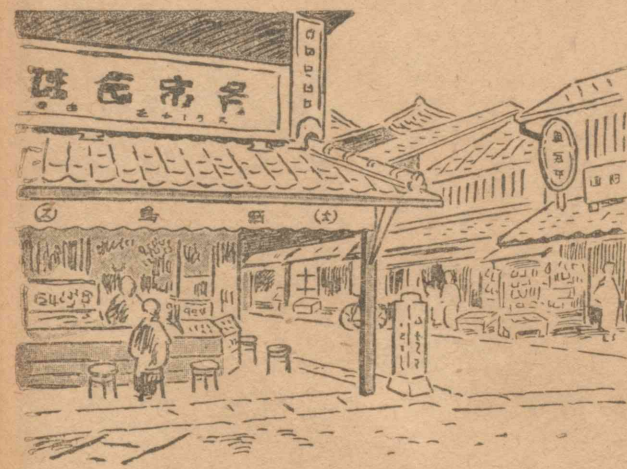


現在の大阪(心斎橋筋)

あい、もりたてていこうという気分がたしかにわいてきている。今の都会の生活では、おたがいに名まえも知らないから何をしてもかまわないという気楽さがあるので、とかく無責任になりがちのものだ。東京にもそういうところは大きいにあるだろうが、一面、

知らないものどうしても、おたがいに心をうちあけてつきあうという大きな気持もそだてられてくるのではないかと思う。」

おとうさんの大阪の町の気分についての話や、京都や奈良のお祭のことや、書いてお



京都 (西本願寺門前町)



奈良 (高島)

くほうがよいことは、ありすぎるほどだが、ぼくのいちばん感じたおじさんの話だけ書いた。おじさんのいう東京の町の新しい気分というようなもの、ぼくはこのまえの街頭録音のときに感じた。





## 一一一、お米の列車

月 日

道 男

ぼくたちはこのあいだから、お米とか野菜とか魚などが、生産地から都会に、はこばれてくるみちすじについてしらべているが、それについて先生からお話をきき、貨物駅の見学をした。はじめに先生のお話、次に見学のときのことを書く。

一

近所の鉄道の駅で、米だわらや小麦粉の袋、また材木やまきそのほかのものが、貨車からおろされ、トラックや荷馬車につまれて、はこばれていくのを見たことがあるでしょう。そのような貨物をおろすホームは、みなさんの乗降するホームとは少しはなれた別のところにあつて、ここでは貨車が一台ずつはずされて、あちらの線路にはいつたり、こちらの線路にはいつてきたりすることも、気がついているでしょう。また貨車には、着駅、発駅その他のことを書いたふだがあることも知つていられるでしょう。

旅客は、列車が目的の駅にとまりさえすれば、自分で下車します。のりかえも自分でします。しかし貨物は、自分で下車したり、のりかえたりしません。第一、自分でのりこむということもありません。だから貨物や貨車には行く先のふだをつけて、人がそのせわをしてやるのです。それに重いものが多いから、のりかえさせることもたいへんです。それで貨車ごと、目的の駅まではこんでしまいます。したがつて鉄道の人たちからすれば、旅客をはこぶのと、貨物をはこぶのとでは、その氣のくばりかたがまるでちがうわけです。その係もちがい、設備も別になつています。

旅客列車はきまつた客車をきまつた区間ひつぱつて往復していれば用がたりますが、貨物列車はそうはいきません。今いったように貨物は、自分でのつたりおりたりしないし、人がつみおろしをするにしても、量が多いとずいぶん時間がかかつてしまいます。小口こぐちのものは別として、大口おほぐちのものは貨車につみこんで置いて、貨物列車がきたら、そのままくつつけてやるほうが便利です。だから貨物列車は、走つていくにつれて、車をつけたり、はなしたりします。はなすのは、貨車が目的地についた場合です。このようには

なすということを考えると、貨物列車の貨車のならべかたはよほどくふうしておかないと困ることがわかるでしょう。うしろから順にきりはなしていくのなら、わりあいには楽ですが、いろいろいりまじっていたら、機関車は何度もいつたりきたりしなければならなくなります。だから貨車をうまくならべて貨物列車をつくること、すなわち貨物列車の編成へんせいという仕事は、たいせつな、またなかなか頭をはたらかす必要のある仕事です。そんな仕事をどこでやっているか、知っていますか。大きな都会の近くには操車場そうしやじやう（ふつうヤードといっている）といつて、貨車をひとまとめにしたり、より分けたりする所があります。そこでは、短い時間でその仕事をやるように、たいそうほねをおつています。この係の人は、全国の駅の名も、駅の順序じゆんじゆなどもほとんど暗記あんきしているほどです。操車場には、旗はたをふる操車係、ポイントを動かすてつ手て、貨車と貨車を連結れんけつする人、信号をあつかう人などがいますが、みんながいつも氣をそろえてやらないと、貨車をこわしたり、ちがった線路へ貨車を送つてしまつて、ほかの貨車がいれなくなつてしまつたりします。

操車場には、専用の機関車が何台もいて、晝も夜も、貨物列車の編成を、ほどこいたり、またつくりあげたりしています。係の人たちも、一晝夜こつたいで働いているとのことです。

鮮魚をつんだ貨物列車や、お米をつんだ列車が、何本も、毎日きまつた時刻にここにはいつてきます。そしてすぐ市場や倉庫のある駅へまわされるのです。

こういう操車場が大きな都市の近くにあるのは、大都市には各地方からたくさん貨物が集まり、またここからさまざまの貨物が、各地方へ送り出されるからです。だから大きな都市には、そういう貨物をつみこんだり、おろしたりする貨物専用の駅があることさえあります。

こうした貨物駅、またはふつうの駅の貨物ホームに到着した貨車は、はこんできた荷物をおろしてしまつと、またもとの発送駅まで送りかえさねばなりません。これも、貨物輸送のためにはだいいじな仕事です。送りかえすためには、もう一度操車場まで引つぱつていつて、ここでもほかからきた貨車といつしよに列車に編成し、毎日きまつた時刻に、

ここから貨物の待つている駅へ出発させます。

各駅の貨物係は、毎日、自分の駅に集まる貨物の状況を各管理部へしらせませす。各管理部は鉄道局へ、各鉄道局はさらに運輸省へ報告します。この報告にもとづいて、運輸省が全国九つの局にさしずし、局はその下の各管理部に、管理部はさらに各駅にさしずして、あいた貨車が遊んでいないように、つまり必要なところに必要な貨車がまわされるように、手配するのです、その苦心はよいいなことではありません。

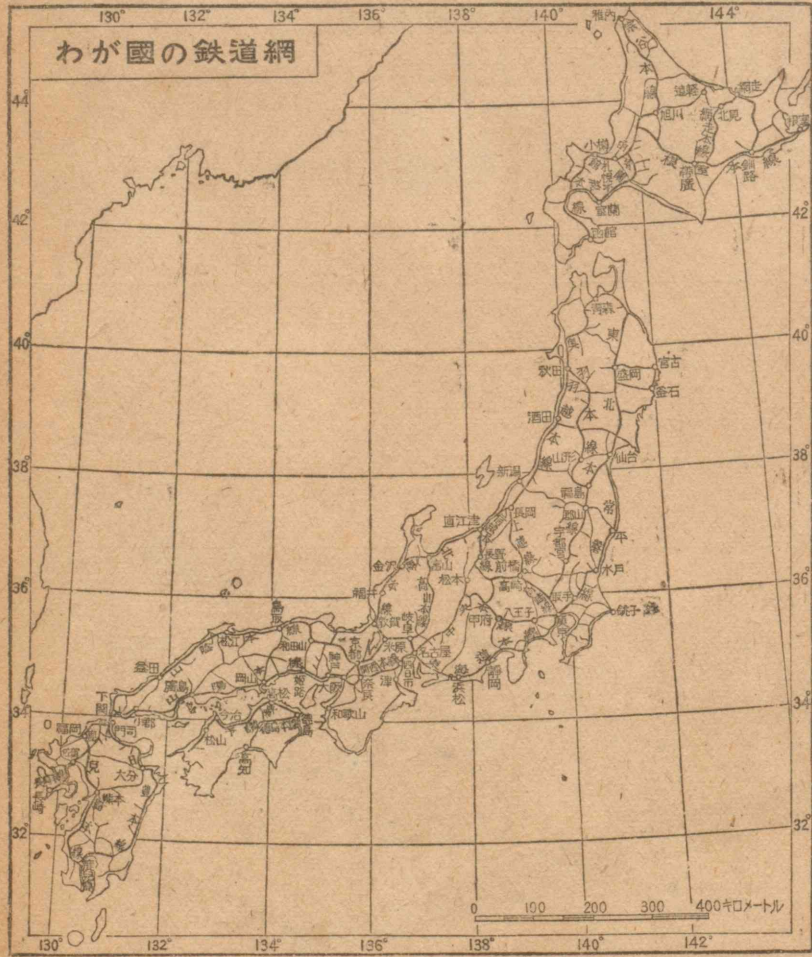
鉄道といえ、旅客をはこぶのがおもしろい仕事だと思つていた人も多いでしょう。しかし鉄道では、貨物輸送のためにも、旅客輸送にとらぬほねおりにしているのです。その苦心はあまり目だたないけれども、たいそう大きな、またたいせつなものです。貨物の輸送がうまくいかなければ、日本の産業はとまり、都市の人たちのお台所なども、たちまち困つてしまいます。そのような例は、ほかにもあげることができるでしょう。鉄道は國の動脈です。これを通じて、人も物資も郵便物もはこばれているのです。

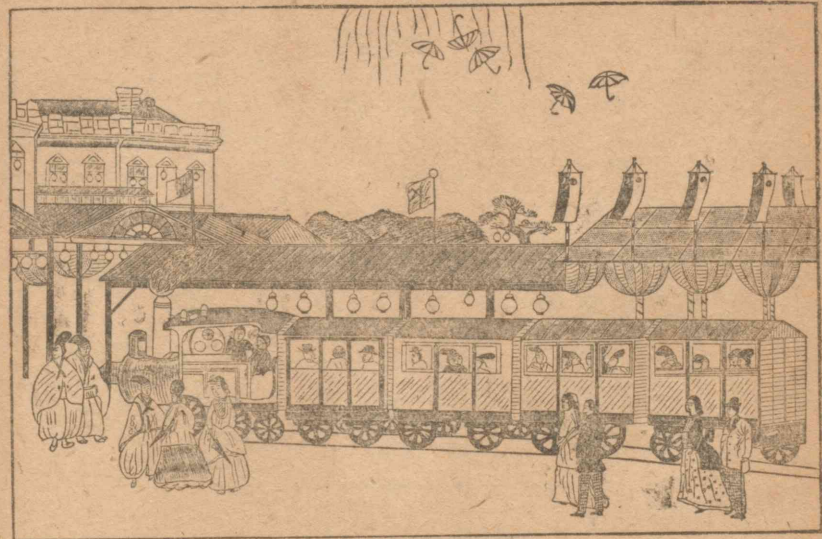
こんど、みなさんが見学に行く貨物駅は、明治五年に開通したわが國さいしよの駅の

あとで、構内

は、その当時のレールやホームの一部が記念に残されています。

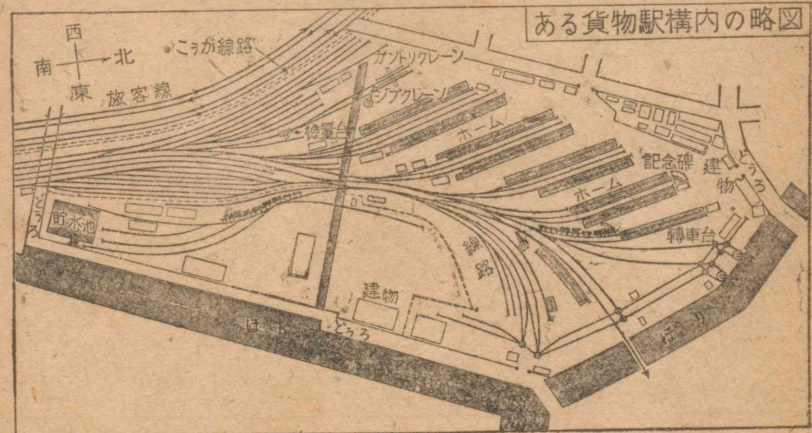
次の図は、その貨物駅の地図です。線路がたくさんしかれていて、レールの総延長は一七キロに達します。ホームも一〇本





明治五年当時の新橋駅

あります。  
貨車がホームへつくと、そこから米だわらを取り出して、いつたんホームにつみあげます。これを受け取りに、トラックやオートバイ

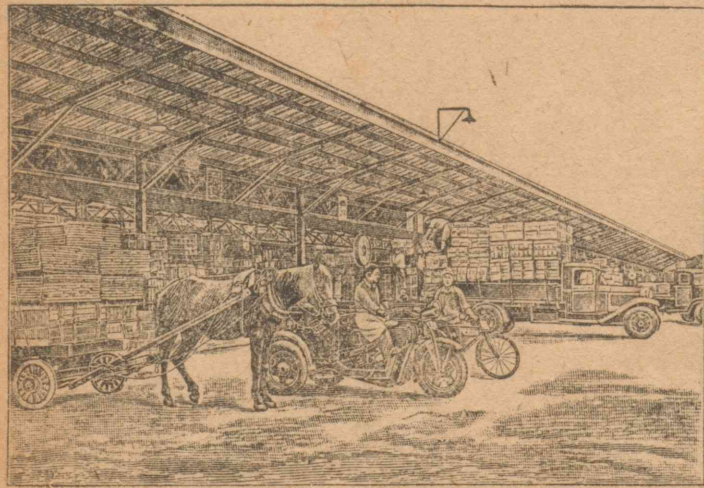


や馬車が集まってきました。

貨車の運送を大運送というのに対して、貨物駅から荷物を受け取り、私たちの家まで配達するのを小運送といい、これは民間の会社で引き受けています。

米だわらは、今のところは、すぐ家庭まで配達されるわけではありませんが、ほかの荷物は、あて名の場所まで届けられるものが大部分です。

貨物のうちで、一車貸しきりではこぼれるのは、車扱しゃあつかいといい、一個ずつばらばらにはこぼれるのは、小口扱こぐちあつかいといいます。私たちの家まではこぼれるのは、この小口扱です。このほか、私たちのよくチッキとよんでいる荷物



運ばん道具のいろいろ

の送りかたもありますが、これは旅客列車ではこぼれるのがふつうです。

荷物はすべて、ついている荷札によつてあて名の家へ配達されますから、あて名をはつきり書き、荷札をしっかりとつけておかなければならないことはいうまでもありません。あて名がわからないで配達のできない荷物が、この駅だけで一年に何万個もあるということですよ。

荷物の受け渡しはたいそうげんじゆうで、発送駅のホームで民間の会社から鉄道のように受けつぐとき、また到着駅で、その荷物が渡されるときなど、はつきり責任者がわかるようになっていきます。

二

貨物駅の入口の近くに立つてみると、出たりはいつたりするトラックやオートバイの多いのおどろく。牛車や馬車もときどき出はいりする。ここが旅客駅の改札口にあたるところだ。しかし、ここでは、出はいりの際は、すべて入口の門番から証明をもらう。ホームにはたくさん荷物が積みあげられている。どしどしはこび出せれば、こんな

つみあげておかないでいいのだがと、案内の助役さんがいった。ホームではおおぜいの

人が働いていて、荷物を貨車につみこんだり、貨車からおろしたりしている。

起重機じゅうじきが動いている。ジーンというきしる

音をたてて、重い鉄の箱をぶらさげたまま、

あとへさがつていく。ガントリー・クレーンというのだそうだ。上下へも、左右へも、前後

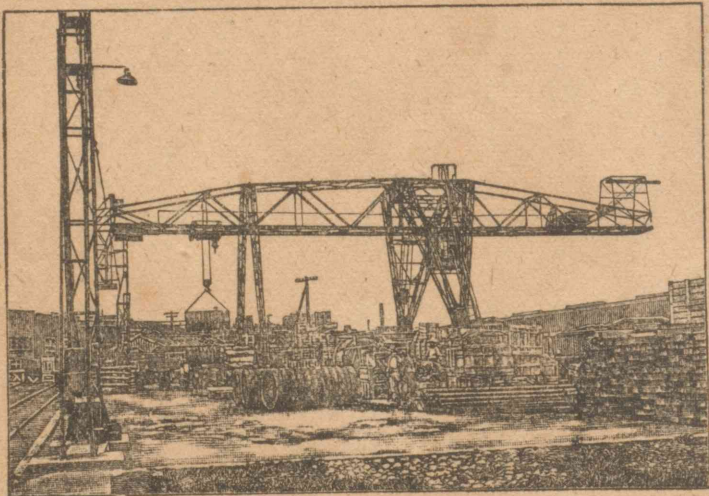
へも回轉できる便利なもので、五トンの重さ

のものまでは、自由にあげさげできる。運轉

台には、人がひとりいて、ハンドルを動かすだけで仕事ができる。

一〇トン用のジブ・クレーンというのもあ

った。大きな貨物自動車にかかるがともちあげていた。このほうはぐるぐるまわるだけ



ガントリー・クレーン

で、左右と上下にはこぶ役目をする。

川ぶちにも線路がしかれていて、船と貨車とのれんらくもできる。ちやうど船から大きな木材が、起重機で貨車へつみこまれるところだった。船はだるま船で、一二〇トンづみのものだそう。これだけで、大型の貨車九台分の荷物をつんでいる。この木材は北海道からきた沖がかりの大きな汽船から、つみかえられてきたものだという。貨車がまにあわないと、だるま船はいく日もここで待たされることもあるそう。ほかに荷物をいつぱいつんだだるま船が二はい、それより小型のてんま船が一はい、岸につながれて、番のくるのを待っていた。

川岸には、貨車の方向をかえるしかけがあつた。一つの貨車がその上へると、土台のまま動かすしかけで、六人ぐらいの人でまわしていた。これなども機械の力でやつたらよいのではないかと思う。

貨車にいろいろな種類のあることもわかつた。大きさでいえば、一五トンづみと一〇トンづみとがあり、屋根のあるもの、ないものに分けることができる。そのうち鮮魚用のものは、屋根うらに氷を入れることができ、貨車のまわりも二重で、冷蔵庫冷蔵庫のようになっていゝ。野菜やくだものはこぶものは、風通しのよいようにつくられている。屋根のないものには、レールのような長いものはこぶものもある。

この貨物駅では、昭和一年には、一年間に、一六四万トンの貨物を取り扱つた。このうち、一一〇万トンが到着、五四万トンが発送だった。到着が多いのは、大都市の消費地をひかえているためだ。

昭和二年には九七万トンのうち、到着は、六七万トン、発送は三〇万トンで、やはり到着のほうが発送の倍以上だ。戦争中には二〇〇万トン以上にも達したが、終戦ですつとへり、まただんだん回復していくようすを示しているそう。

到着する貨物は、米・麦・野菜・鮮魚などの食料品や木材・石炭などが多い。発送のほうは、とくにめだつものはなく、いろいろな工産品がふくまれているそう。

この駅には駅員が三五〇人もいるところへ、民間会社からも毎日何百人という人がきて働いているということだ。

## 一三二、百貨店での買物

月 日

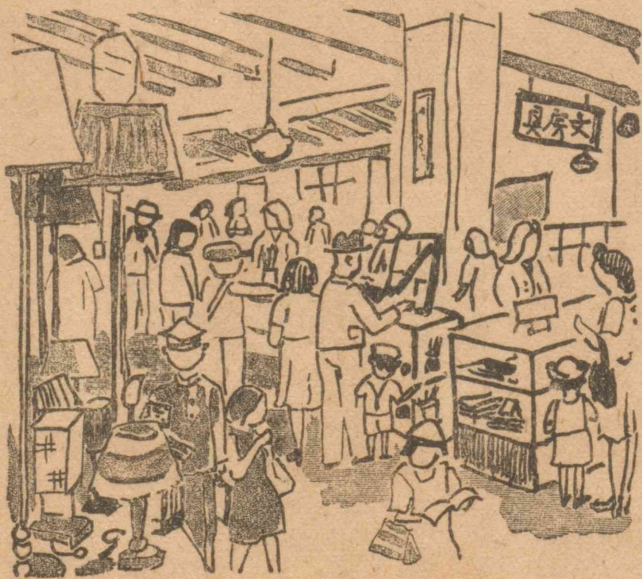
じゅん子

おとうさんが、静養をかねて一〇日ほど、郷里のおじさんの所へいらつしやるので、おととい、かず子さんと私とおみやげを買いにいきました。品物についてはいろいろな意見が出ましたが、結局、お店へ行って品物を見なければわからないというので、ふたりにまかされてしまいました。金額は二〇〇円から三〇〇円までときめていただきました。

品物をあれこれ見るには、百貨店が便利ですが、百貨店にもそれぞれ特色があるようで、かず子さんは〇〇へいこうといわれました。それは地方では、同じ品物でも、有名な百貨店で買ったものがよるこばれるからです。かず子さんは、きょうは少し時間をかけて百貨店の品物を見てみましょうといつて、パンをもつて出かけました。

百貨店の入口には、いく人も人がたたずんでいました。交通の便利な所なので、人を待ちあわせているのでしょう。入口をはいるとすぐ地階におりて、じゅんじゅんに見ていくことにしました。とつぜん、にわとりがないのでびつくりしました。小鳥の賣

物にチャボがまじっていたのです。ガラス器や食器類・台所用品・園藝用品などがちねれつされていました。ガラス器の所で、何かよいものはないかといろいろ見ましたが、かず子さんはあまり適当な品がないといつて、一階にあがりました。一階は化粧品・薬品・旅行用品・文房具と食料品が、ちねれつされてきました。ここでは、文房具だけがおみやげの候補になりましたが、おじさんのおうちの人のだれにでもよろこんでいただけるかどうかかわらないので、みあわせました。



百貨店のショウウィンドー

店 内 案 内 表

七階	六階	五階	四階	三階	二階	一階	地階	
	○	○		美術工藝部 繪画 美術工藝品 茶道具 屏風 額立 衝立	呉服部 染物工藝品 染織品 帯類 風呂敷 〇〇〇指定所衣料品販賣	雜貨部 身辺用品 旅行用品 袋物靴類 髪飾り品 文房具 裁縫用具 事務用品 印刷承り所 印章承り所	家庭用品部 荒物 炊事用具 金物類 陶器 漆器 ガラス器 冷蔵庫 神佛具 園藝部 種苗 盆栽 花小鳥 園藝用品 農機具 奉仕部 貸衣裳係 写真室 理髮室 美容室 修理係 結婚式場 食堂部 店内御案内 御手洗所	
				家具部 和洋家具 敷物 カーテン 室内裝飾 御承り	洋服部 男子服 中等学校制服 学童服 婦人子供服 廣中製地類 肌着類 ネクタイ 帽子 ハンカチ 玩具 趣味雜貨 体育用品 釣道具 電器部 電氣器具 照明器具 ラジオ修	藥品部 化粧品 藥品 度量衡器 食料品部 食料品 鮮魚 野菜 果物 配給食料品 製粉製パン承り所 煙草 喫煙具 店内御案内 御手洗所		
				事務室 楽器 レコード 樂譜 時計眼鏡寫眞機 眼鏡 檢眼鏡 時計 寫眞機及材料 商學部 展覽會 場 御手洗所				

二階には、書籍・おもちゃ・運動具・電氣器具・工藝品のほか、ぼうし・和服・洋服・ワイシャツなどの仕立を受けるところ、洋服のクリーニングを受けるところなどがありました。電氣アイロンなど、どうかと思いましたが、かず子さんは、いなかでは電圧がよわいから、つごうがわるいかもしれないといわれました。

三階には、いすや机・家具類・敷物・樂器・めがね・とけいなどを賣っていました。めざましどけいならおとうさんの荷物にもならないし、おじさんのおうちの人が、だれでも便利ではないかということになりましたが、私はふと思いついて、トランプはどうか、とかず子さんにいいました。かず子さんも、それはなかなかいい考えだと賛成してくださいって、もう一度、二階において、おもちゃのちんれつ場にいききました。かわいらしい人形や、乗物のおもちゃなどありましたが、トランプはみえませぬ。かず子さんが、それでは、おもちゃ専門のお店にいつてみようといわれ、ちようどひらかれていた南極捕鯨船の展覧会と、洋画の展覧会を見てから、外へ出て、おもちゃ屋にいつてみま



した。しかしどういふものか、ここでもやっぱりトランプは賣り切れていました。それでとうとうもう一度もどつて、めざましどけいを買いました。

帰りは地階の喫茶室で、おべんとうをたべました。家へ帰つてからおとうさんたちに、めざましどけいとはよい思いつきだったとほめられました。おじさんたちがよろこんでくださればよいと思います。

百貨店で感じたこと、かず子さんや家へ帰つておじさんに教えていただいたことを書いておきます。

(一)百貨店では、品物を賣るだけでなく、お客のよろこびそうないろいろな仕事をしていきます。

(イ)汽車のきつぷを賣る。

(ハ)理髪をする。

(ホ)結婚式場がある。

(ト)クリーニングを引き受ける。

(リ)製粉や製パンを引き受ける。

(ル)幼児の保育の相談所がある。

(ワ)食堂や喫茶室がある。

(二)お客のために、できるだけ便利なようにくふうしています。

(イ)店内案内所・案内図がある。

(ハ)公衆電話がある。

(ホ)荷物の配達・発送をせわする所がある。

(ト)店員は買つても買わなくても親切にする。

(三)百貨店の品物は種類が多く、それにガラス戸棚や、ちんれつ台にならべてあるので、みやすく、衛生的で、価格もはつきりついています。品質も確実で、目方も正しく、ねだんもわりあい安いそうです。しかし特別の品物は、専門店にいかないとないものもあります。またふつうの店や露天市場などで賣っている品物で、百貨店にはないものもあります。そのかわり新しく賣り出したものや、めずらしいものがあります。お

(ロ)劇場・映画館・音楽会のきつぷを賣る。

(ニ)美容室がある。

(ヘ)写真、とくにはやとり写真をとる。

(チ)洋服・和服などの仕立をする。

(ヌ)こもりがさ・とけい等の修ぜんをする。

(オ)歯医者・目医者がある。

(カ)展覽会場を貸している。

(ロ)迷子の問いあわせ所がある。

(ニ)荷物の預かり所がある。

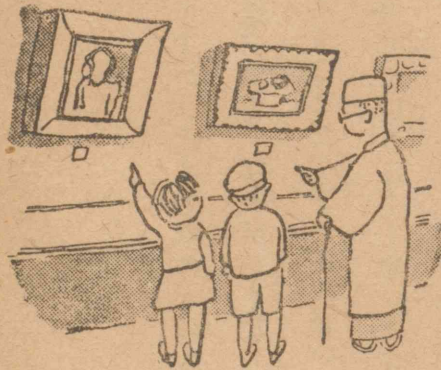
(ヘ)休憩室や休養室がある。

もしろいことには、中古の道具類や工藝品などもあり、また委託販賣といつて、賣りたい人の着物や道具などを、手数料をとつてちんれつしている所がありました。こういう中古品や古本など、まえには百貨店では取り扱わなかつたそうです。

(四)百貨店には劇場・映画館などがついているのがだいぶあります。まえにはこどもの遊び場所もついでいました。

(五)百貨店は、ふつうの小賣店にとって大きな競争相手です。お客さんをみな百貨店にとられてしまつては、小賣店が困ります。問屋でも、百貨店のほうがたくさん買つてくれるし、店の信用もつくので、少しぐらい安くしても、百貨店に品物をまわします。お客も百貨店だと、一度にいろいろな品物を見たり、買つたりできるし、それにねだんが安いといふので、しぜん百貨店でよけい買物をするようになります。それでは小賣店は困つてしまいます。だから小賣店のほうでも、組合をつくつたり、品物の種類をきめて、その種類についてだけは、百貨店よりよい品やめずらしい品をそろえている専門店になつたりして、百貨店と競争しようとしています。それでもおもしろいことには、

百貨店の近くの小賣店では、百貨店がお休みの日は、かえつて品物の賣上高がずつと少なくなるそうです。問屋は現在のよくな時代には、百貨店に公定價で品物を出すのはあまり有利ではないけれども、將來のことを考えて、品物をおさめているそうです。百貨店の品物は全部公定價なので、どうしても利益がうすく、現在はなかなか経営がむずかしいそうです。



## 一四、これからの都市

月 日

道 男

清君、お元気ですか。ぼくの家のものもみんな元気でくらしています。ときどき疎開していたときの話が出て、なつかしくなります。こちらでは、そろそろうめが咲きはじめました。そちらはまだ、ずいぶん寒いことでしょう。きみは元気でスキーをしたり、温泉にはいつたりしていることと思います。ぼくたちもみんな、もう一度お湯へはいるりにいきたいと話しています。

こちら、このごろはずいぶん復興してきました。所によつては、昔とほとんどかわらないような場所もあります。しかし大都市として、はずかしくないようなものができあがるまでには、だいぶ時間のかかることでしょう。でもいつかはきつと、便利で健康に適した理想の都市ができることでしょう。

こんなことを書くのは、先日、役所から技師さんが学校にきて、将来の都市の話をしてくださったからです。その話をきいて、ぼくたちは、みんなうれしくなりました。そしてぜひ、きみにもおつたえしたくなつたのです。

技師さんの話によると、都市復興計画のおもな目標としては、

- (一) 太陽の都市
- (二) なかよしの都市
- (三) 樂しみの都市
- (四) 歩いて用のたまる都市
- (五) 野菜の都市
- (六) 生産の都市
- (七) 文化の都市
- (八) もえない都市

が考えられているとのこと。

(一)の太陽の都市というのは、新しくできあがる都市を、「どの家のどのたたみにも、日のあたる町。」にすることです。

すべての都市を太陽の町にしようということは、今世紀のはじめ以来、世界じゅうの都市の問題であつたといつてよいでしょう。

このような町をつくるためには、できるだけ広い道路をつくりまします。緑地や公園も十

分とります。そして風上に、工場地帯をおかないようにします。それは工場から出るけむりやすすが、都市の空をおおうことのないようにするためです。

世界で太陽の町をこころみたいしよは、英國のロンドンの郊外にある田園都市レッチオースで、新しい土地へ、空地や緑地の多い人口三万の都市をつくったのです。その結果その町の死亡率は、千人あたり八人という低い率になりました。東京はこれまで千人あたり一六人、金沢は一四人です。将来の東京は一〇人ぐらいにしたいのだそうです。

太陽の都市にするためには、住宅の敷地をひろげなければなりません。これまでの敷地の大きさは、市内では二〇坪がよいほうで、一〇坪・五坪、ひどいのは二坪でした。そういうねこのひたいのような土地に、すしずめになつていたのですから、大都市の人は、みんな青い顔をしていたのです。私たちも疎開したときは、顔色がわるいので、きみたちにあやしまれたくらいでしたね。こんどは家々の宅地を、少なくとも二〇坪以上とり、その七割以上はあき地に残すというのです。

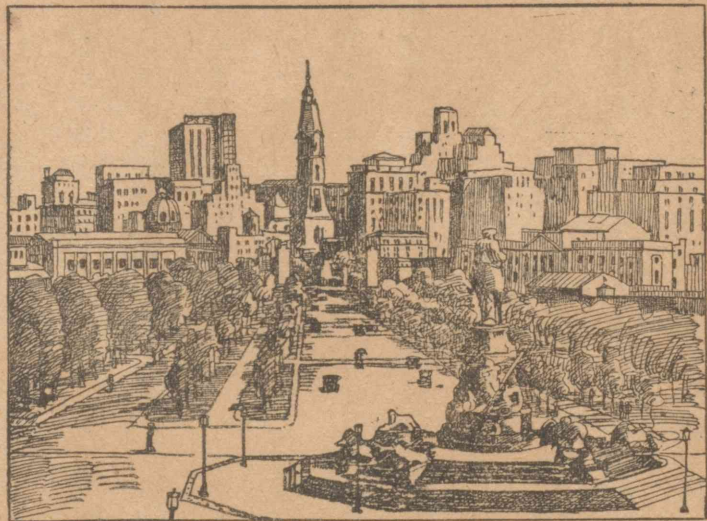
(二)のなかよしの都市というのは、どういふのでしょうか。これは、今までの大都市が、さばくのような感じの所であつたのを、もつとあたたかみのあるなかよしの町にしようというのです。

昔、プラトンという人は、一つの都市のちようどよい大きさは、その都市に住む人がおたがいに顔みしりになれるぐらいがよい、したがつてその人口は、三万ぐらいが適當である、といいました。

ヨーロッパの中世の人たちは、都市のまんなか、廣場をつくることをくふうしたそふです。人々は、そこに一日に一度は集まつて、話をしあいました。その廣場の大きさも、市民がそこに集まつたとき、廣場の片すみから、中央で話す人の声がききとれるくらいのが大きさがよいとされています。

日本の町は城下町から発達したものがわりあいに多く、そうした所は、いわば、町が城に向かつて横隊をつくつていたりといった形です。これでは、市民のあいだの結びつきが、できてきません。これに対して外國、とりわけヨーロッパの都市は、現在、廣場を中心として、円の形をつくつていくのが多いのです。こうした廣場こそは、都市の花と

もいつてよいものでしょう。



活ができるというわけです。

#### 外 國 の 都 市 の 廣 場

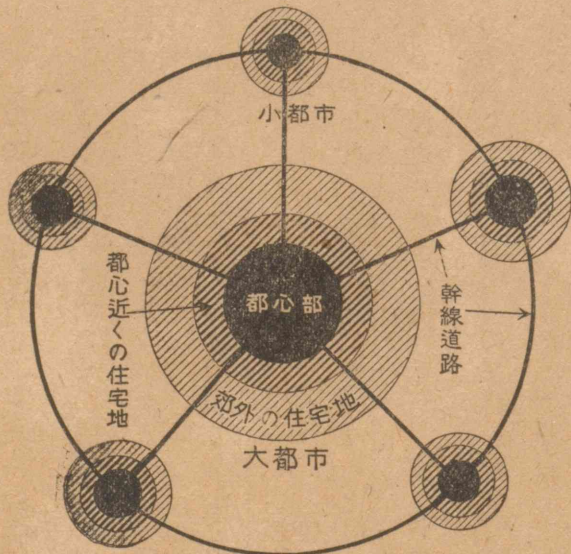
こんどの計画では、大都市をいくつかの大きな生活の区域に分け、それぞれの中心に大廣場を置き、その廣場のまわりに、区役所や公会堂などをつくりまします。そうしてこの生活区域全体は、緑地帯で包むようにまします。こうしたものは、だいたい面積が一千万坪、人口は三〇万ぐらいとして、これをまたいくつかの人口五万ぐらいの小さな区域に分けて、そこにも、それぞれの小さな廣場をつくるようになります。そうすればおたがい顔みしりのなかよしの生

(三)の楽しい都市にするにはどうすればよいでしょうか。そのためにはいろいろな設備をしたり、都市を美しくしたりするのです。

たとえば公園や、映画館・劇場・音楽堂・絵画館などを計画的につくりまします。

それも都市を美しくするようにまக்கும்のです。今までの日本の公園は、東京などでも、人口ひとりに対して〇、一四坪で、ニューヨークの二、八二坪、ロンドンの二、三三坪にくらべると、ほんとなさけないありさまでした。が、こんどは、楽しく明かるい公園を、大きなのも小さなものたくさんつくるのです。

水のほとは、すべて緑の木や草花でかざります。ほりでも川でも池でも、みな緑で



大都市と小都市のむすびつき

つつんで、水の公園をつくります。したがって、町につき出た丘も公園となって、よいみはらし台がたくさんできます。

土曜日や日曜日に、家族がみんな遊びにいけるようなさかり場もできます。しかし、それは今までのようなければいい場所ではなく、はじめから計画して、氣持のよいほんとうに楽しい所にします。

小学校のまわりにも、広い運動場や緑地帯ができます。そうすれば、道路の上でキャッチボールをする人などはなくなるでしょう。

(四)の歩いて用のたたる都市といわれて、私たちはちよつと意外に思ったのですが、それは、働く人ができるだけ自分の働く場所の近くに住めるようにするということです。現在のように、町はずれや遠くの地方から都会のなかへかよつてくるのでは、朝晩かようだけで、くたびれてしまいます。

このためには都会の中心部を、住宅の多い方に移します。お役所や会社の事務所も移すようにし、反対に工場の近くや都会の中心部にも住宅地をつくります。小学校・中学校・高等学校・大学なども、交通の便利を考えて、うまくところどころにくばるようにするということです。

(五)の野菜の都市は、家々の宅地や郊外の野菜畑、また緑地帯の畑などをうまく利用して、都市に住んでいる人が、野菜の不足に困らないように、また新しい野菜が十分たべられるようにしようということです。

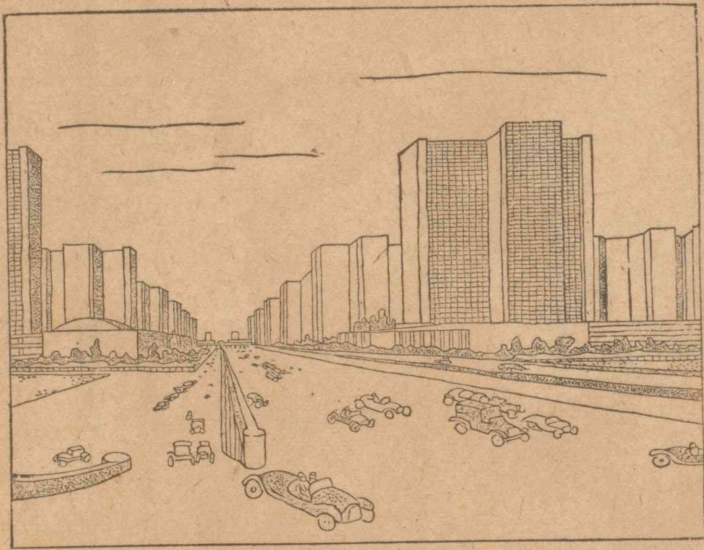
(六)の生産の都市というのは、各種の工場や商店の場所をうまくとりあわせて、今までよりもずつとぐあいよく、生産が行われるようにすることです。工業地帯についていえば、原料や燃料をはこぶ必要から、陸上や水上の交通の便利な場所で、工場のひろい敷地もたやすく手にはいる所、つまり地價がやすく、坂のない低地などをえらびます。しかしいっぽうでは、そこから出すすすやけむりが、都市をおおうことのないようにする必要がります。

(七)の文化の都市というのは、大学や図書館・映画館など、文化的な設備をよく考えてつくつた都市をいいます。図書館のとなりには工場があつたり、貨物駅の近くに大学があ

つたりするのでは、困ります。イギリスあたりには、大学を中心とした都市ができていて、一木一草から水の流れにいたるまで、大学の歴史を思い出させるように保護されているということ。動物園や植物園も、大きなものができなければならないし、子どもたちのための文化設備もたいそう必要です。

(八)のもえない都市のことは、きみもそうぞうできるでしょう。今までのように、もえるようにできていた町を、もえない建物、あき地や緑地をもつた、もえない都市につくりあげようというのです。

こうした計画がどしどし実行に移されていくのは、考えても胸のすくような思いがします。現に、私たちの目につくだけでも、はばの広い道路をつくるために、ところどころにくいを立てられています。はば一〇〇メートルの道路もできるといいます。これまでの日本の大都市では、はば四四メートルの道路が、いちばん大きなものでした。各駅の前に、廣場をつくり、そこへ並木でかざられた美しい広い道路をひらくことなどは、もう計画にしたがつて仕事が進められています。



都心部の一つの計画

技師さんの話した将来の都市は、もう夢ではなくなっています。「わざわざいをかえて福とする」ということわざどおり、わが國の都市も、このような計画にしたがつて、しだいに復興していきます。

ぼくは、去年住宅難についての街頭録音をききにいったとき、あまり一時しのぎの家ばかりたてるのはどうか、と心配しましたが、きょう、技師さんのお話をきいて安心しました。

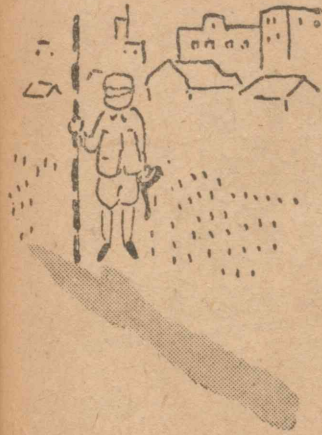
しかしそうした都市の計画を実現していくためには、資材などの上からも、さまざまの困難がありますし、その上道路をつくる予定地にあつた家などは、この住宅難のおりにもかかわらず、たちのかなければな

らないのです。これもむずかしい問題だと思います。清君はどう考えますか。

山の方に住んでいて、こんな話をきくとへんな気がするでしょう。でもぼくは、都市の復興だけでなく、農村の復興も、日本全体の復興も、あの技師さんのお話のような、大きな計画にしたがつて実現していくのがよいのではないかと考え、御参考までにこの手紙を書きました。別に手に入れた地図類や絵なども送ります。

おからだをたいせつにしてください。おうちのみなさまにもよろしく。ではさようなら。

ら。



(附) 教師及び父兄の方へ

一、この本は、都市の生活に取材して、人間生活、社会生活に対する目をひらき、これについての知識を廣めるとともに、自分たちの生活に於ける各種の問題を発見させ、その解決のためにする活動に若干の資料を興えようとしている。

その意味でこの本は「私たちの生活」(一)「村の子ども」と対応しているが、むしろ資料をなるべく多く提供しようとしておいている。いずれにせよ、「村の子ども」も「都会の人たち」も、決して農村用、都市用として作られたものではなく、根本的にはどちらにも共通する問題を取り上げていき、その相互の理解を深めることをめざしている。

けれども、そのようなねらいに対しても、この本は決して十分ではない。だからこの本を読ませたり理解させれば、それで社会科の学習がおわつたと考えたり、無理をしてもこの本に書いてあることだけは理解させなければ、社会科の学習が成り立たないと考えたりしては困る。むしろ児童用の参考書の一つとして取り扱っていただきたい。

この本は、児童の文章の形式で書かれているが、決して作文の模範とはなり得ないものであることを注意してほしい。児童の社会科の学習帳をこのような作文でうすめることを考えたりするのは、だいたいにおいて非常に無理なことである。

二、児童たちはこの本を読むことによつて、いろいろな研究問題を発見したり、また自分たちの



生活を向上させる計画を立てたりするであろう。教師や父兄は、児童たちのこのような動きを利用して、社会科の学習を發展させていたきたい。また教師は自分の予定した学習活動に児童を導入したり、その活動を發展させるためにも、この本を利用することができるであろう。

三、急速に移りかわっていく都市生活の各種の事実についての叙述は、教師及び児童の手で修正されていかなければならない。児童たちが、印刷された本に書いてあるからといって無批判に受け入れることのないように、指導を加えてほしい。

四、五六年の児童用書として、「私たちの生活」(一)(二)(三)(四)が刊行されたが、その様式やねらいが少しずつかわっている。教師ならびに父兄の方の批判を参照して、今後さらに附加すべき児童用書の様式やねらいはもちろん、内容をも考慮していくべきであると考えている。その意味で、各冊ごとに、これに対する批判や忠言を寄せていたきたい。

「私たちの生活」 総索引

一、配列はアイウエオ順です  
二、算用数字は巻、和数字は頁を示します

愛知縣	2	四	アスバラガス	3	元	アラビア	4	四
アイヌ人	3	元	あぜくらづくり	4	四	有明(ありあけ)海	3	毛
青森縣	3	交	阿蘇(あそ)山	3	一八	安全装置	2	四
阿賀(あがの)川	3	一三	阿武隈(あぶくま)川	3	三		2	四
秋田(あきた)縣	3	毛	アフリカ	4	四	飯塚(いづか)家	3	一〇
あぐり網	3	二三	あま	3	元	イギリス	4	三
あさ	4	六	尼崎(あまがさき)	3	三		2	四
	4	六	アマゾン盆地(ぼんち)	4	五		4	三
旭川(あさひがわ)	3	四	網元(あみもと)	1	三		4	三
アジア	3	二七	雨	4	六		4	三
アジア大陸	4	五	アメリカ	1	三	生駒(いこま)山脈	3	三
足利(あしかが)	3	五	アメリカインディアン	2	三	石置屋根(いしおきやね)	4	二〇
安治(あじ)川	3	三	アメリカ合衆國	3	二五	石狩(いしかり)炭田	3	二八
芦湖(あしのこ)	3	一〇	荒川	1	三	石狩平野	3	三
アッスワン	4	一〇	荒らし	4	四	石川縣	3	三
安土(あすち)	3	二五	アラスカ	4	四	石山本願寺	3	三
			荒浜(あらはま)	3	一五	いしわた	2	三
						伊豆(いず)	3	三
						伊豆諸島	3	六
							3	六

イースト 2 八  
 伊豆の大島 4 八  
 イズバ 4 四  
 イスバニア 4 二  
 イスバニア人 4 七  
 伊豆半島 4 三  
 伊勢崎(いせざき) 3 五  
 伊勢まいり 1 二  
 緯線(いせん) 4 二  
 委託販賣(いたくはんばい) 2 二  
 市(いち) 3 五  
 一向宗(いっこうしゅう) 3 三  
 猪苗代(いなわしろ) 3 二  
 發電所 3 二  
 伊能忠敬(いのうただたか) 3 九  
 茨城(いばらぎ) 縣 3 四  
 いわし 1 三  
 石見(いわみ) 3 二  
 岩見沢(いわみざわ) 3 五  
 インド 4 七

上野(うえの) 3 六  
 上町(うえまち) 3 四  
 ヴェルホヤンスク 4 二  
 魚見(うおみ) 1 五  
 雨季 4 七  
 宇治(うじ) 3 三  
 宇治茶 3 三  
 宇部(うべ) 炭田 3 二  
 裏日本 4 一  
 雨量 4 九  
 運動會 2 七  
 運輸省(うんゆしょう) 2 四  
 英國 2 三  
 衛生(えいせい) 部長 2 三  
 エジプト 4 二  
 エスキモー 4 五  
 絵草紙(えぞうし) 1 七  
 越後(えちご) 4 三  
 越後平野 3 三  
 江戸 3 二

江戸氏 3 五  
 江戸時代 1 三  
 江戸っ子 2 七  
 エボナイト 2 五  
 沿岸航路 3 二  
 塩田(えんでん) 3 二  
 煙まく 1 四  
 遠洋漁業 4 三  
 オアシス 4 七  
 王滝(おうだき) 川 3 三  
 おうとう 3 九  
 應仁の乱 3 九  
 大井川 3 三  
 大阪 2 一  
 大阪市 3 二  
 大阪府 3 三  
 大阪平野 3 二

大阪湾(わん) 4 三  
 太田道灌(おおただかうかん) 3 二  
 近江(おおみ) 盆地 3 三  
 岡山(おかやま) 縣 2 四  
 岡山平野 3 二  
 隠岐(おき) 3 一  
 沖繩(おきなわ) 本島 4 二  
 隠岐島(おきのしま) 3 二  
 オーストラリア 4 四  
 小田原(おだわら) 3 五  
 小千谷(おぢや) ちぢみ 4 一  
 小千谷町 4 二  
 帯廣(おびひろ) 3 六  
 オフィス・ビル 2 四  
 表日本 4 一  
 親潮 4 二  
 オランダ 4 三  
 オランダ人 4 七  
 尾張藩(おわりはん) 3 三  
 遠賀(おんが) 川 3 二

温室 4 二  
 温室栽培(さいばい) 4 四  
 温床(おんしょう) 3 九  
 温帯地方 4 七  
 オンドル 4 五  
 甲斐(かい) 3 二  
 壞血(かいけつ) 病 4 三  
 街頭録音(がいとろうくおん) 2 八  
 海風 4 四  
 海流 4 三  
 外輪山(がいりんざん) 3 一  
 カカオ 4 七  
 化学 2 四  
 香川(かがわ) 縣 3 二  
 花崗岩(かこうがん) 3 二  
 火口丘(かこうきゅう) 3 一  
 火口原(かこうげん) 3 一  
 火災受信器(かさいじゅしんき) 2 七  
 火山(かざん) 3 三

火山帯(かざんたい) 3 九  
 火事 4 一  
 カジキ 1 四  
 貨車(かしゃ) 2 一  
 霞浦(かすみがうら) 3 五  
 風 4 二  
 かぜなだれ 4 二  
 勝浦(かつうら) 3 二  
 かつお 1 五  
 学級自治會 1 一  
 学校給食 2 一  
 学級新聞 1 二  
 学級文庫(がっきゅうぶんこ) 1 五  
 神奈川(かながわ) 縣 4 二  
 金沢 2 三  
 カナダ 4 九  
 蟹工船(かにこうせん) 1 一  
 壁新聞 1 六  
 鎌倉(かまくら) 時代 3 五  
 貨物駅 2 二

カラフト 4 三  
 狩勝峠(かりかちとうげ) 3 三  
 火力発電 3 二七  
 軽石(かるいし) 3 三  
 カルデラ 3 一〇八  
 カルメット 2 二六  
 カロリー 2 二六  
 河村瑞軒(かわむらすいけん) 3 三  
 岩塩(がんえん) 3 三三  
 カンガルー 4 六  
 乾期 4 六  
 がん木 4 六  
 勸業(かんぎょう)銀行 4 二二  
 勸工場(かんこうば) 2 二〇四  
 かんじき 4 二二  
 寒帯地方 4 四  
 干拓(かんとく) 3 三  
 神田上水(かんだじょうすい) 3 三  
 神田明神(みょうじん) 2 一〇四  
 寒天(かんでん) 3 六

関東地方 3 三  
 関東平野 3 三  
 ガントリ・クレーン 2 二九  
 桓武(かんむ)天皇 3 三  
 管理部(かんりぶ) 2 二四  
 寒流 4 六  
 気圧計 4 二九  
 気温 4 二七  
 起重機(きじゅうき) 2 二九  
 氣象(きしょう)観測所 3 一〇  
 岸和田(きしわだ) 3 三  
 季節風 4 六  
 木曾川 4 一四  
 木曾五木(きそごぼく) 3 三  
 木曾路(きそじ) 3 九  
 木曾谷 3 六  
 木曾の森林鉄道 3 六  
 北アメリカ 4 五  
 北浦(きたうら) 4 三  
 北回帰線 4 三

北上(きたかみ)川 3 三  
 北九州工業地帯 3 三  
 キナ 4 七  
 ギニア湾 4 七  
 キハダ 1 四  
 基布(きふ) 2 一  
 着物(きもの) 4 六  
 九州 3 五  
 宮城 4 三  
 給水所(きゅうすいじょ) 2 二  
 牛乳 1 一  
 教育部長 2 一  
 供出(きょうしゅつ) 1 一  
 行商(ぎょうしょう) 1 二  
 京都 2 一  
 京都市 3 一  
 京都盆地 3 一  
 漁業 1 一  
 漁業会 1 一  
 漁業組合 1 一  
 漁業権(けん) 1 一

漁港 3 二七  
 漁場(ぎょじょう) 1 一  
 漁村 3 五  
 共同炊事(すいじ) 1 一  
 清水焼(きよみずやき) 3 九  
 霧島(きりしま)火山帯 3 二六  
 桐生(きりゅう) 3 五  
 金華山沖(きんかざんおき) 1 一  
 近畿(きんき)地方 4 一  
 銀行 2 六  
 九十九里浜 3 三  
 久能山(くのうざん) 4 元  
 熊谷(くまがや) 3 五  
 組合(くみあい) 2 五  
 蔵屋敷(くらやしき) 3 三  
 クリーム 1 六  
 黒潮 4 六  
 黒部(くろべ)川 3 一〇三  
 クロマグロ 1 四  
 クロール 1 一〇五  
 群馬 1 三

群馬縣 4 三  
 経済(けいざい)部長 2 三  
 経線(けいせん) 4 二  
 慶長(けいちょう) 3 二七  
 慶長五年 3 二  
 京浜(けいひん)工業地帯 3 三  
 げし 3 三  
 結核菌(けっかくきん) 4 二  
 けば式図 2 七  
 ケーブルカー 3 一  
 グラン 2 六  
 検地(けんち) 3 二  
 ケンチンじる 4 七  
 遣唐使(けんとうし) 4 四  
 検便(けんべん) 2 三  
 元祿(げんろく) 3 二  
 講(こう) 1 二  
 郷(こう) 3 三

公園 2 一  
 黄河(こうが) 4 四  
 紅海 4 四  
 興業(こうぎょう)銀行 2 一  
 黄砂(こうさ) 4 一  
 公衆衛生(こうしゅうせい) 2 三  
 甲州街道(こうしゅうかいどう) 3 五  
 工場長 2 四  
 降水量(こうすいりょう) 4 九  
 厚生部長 2 四  
 耕地整理 1 三  
 交通局 2 五  
 公定價 2 一  
 興福(こうふく)寺 3 六  
 甲府(こうふ)盆地 3 六  
 神戸(こうべ) 1 三  
 鉾脈(こうみやく) 3 一  
 小賣店 2 一  
 香料(こうりょう) 4 六  
 小運送(こうんそう) 2 二

小口扱(こぐちあつかい) 2 二七  
 黒耀石(こくようせき) 3 七  
 小作 1 六  
 兒島(こじま)湾 3 七  
 小谷狩(こたにがり) 3 六  
 黒河(こっか) 4 六  
 ゴビさばく 4 六  
 古墳 3 五  
 古墳時代 3 五  
 コモリネズミ 4 六  
 コーリヤン 4 六  
 コロンブス 3 二五  
 コロラド川 4 一〇三  
 コンゴ盆地 4 五

【サ】

西國(さいごく) 3 三  
 埼玉(さいたま)縣 4 三  
 堺(さかい) 3 三  
 境(さかい)港 3 二六  
 坂出(さかいで) 3 一六  
 佐賀縣 2 四  
 相模(さがみ)川 3 一〇三

作業(さぎょう)部長 2 二六  
 鎖國(さこく) 3 五  
 薩南(さつなん)諸島 3 一六  
 札幌(さっぽろ) 4 三  
 佐渡(さど) 3 二五  
 讃岐(さぬき) 4 一四  
 讃岐平野 4 七  
 さばく 4 六  
 サハラさばく 4 六  
 狭山池(さやまのいけ) 3 三  
 山陰(さんいん)地方 3 一〇  
 三角洲(さんかくす) 4 六  
 三河(さんか)地方 3 六  
 參勤交代(さんきんこうたい) 4 一〇  
 山村 3 五  
 滋賀(しが)縣 2 二六  
 シカゴ 4 七

【シ】

資源 3 二六  
 四國 3 一〇  
 静岡 4 三  
 静岡縣 3 六  
 下町(したまち) 2 一〇  
 しっけ 4 六  
 実況放送 1 九  
 濃度(しつど) 2 九  
 信濃(しなの)川 3 一〇  
 ジバンゲ 3 一〇  
 じびき網 1 三  
 ジブクレーン 3 一三  
 シベリア 4 九  
 清水 3 九  
 下総(しもふさ)台地 2 二七  
 車扱(しゃあつかい) 2 二七  
 市役所 2 二七

社宅 2 四  
 ジャンゲル 4 五  
 朱印船(しゅいんせん) 4 一〇  
 集音機(しゅうおんき) 2 九  
 従業員組合 2 五  
 住宅難 2 五  
 じゅうそう 1 六  
 縮尺(しゆくしゃく) 3 八  
 宿場(しゆくば) 1 三  
 宿場町 3 一〇  
 狩獵(しゅりょう)生活 3 六  
 城下(じょうか) 3 五  
 庄(しょう)川 3 一〇  
 城下町 2 一三  
 蒸氣機關(じょうききかん) 3 二七  
 小公子 2 三  
 商工省 2 三  
 正倉院(しょうそういん) 4 四  
 常磐(じょうばん)炭田 3 二九  
 植針機(しょくしんき) 2 三  
 食物 4 七  
 じょちゅうぎく 3 元

【ス】

ジョルダン 4 二五  
 新宿(しんじゅく) 3 六  
 新庄(しんじょう) 4 二二  
 神通(じんつう)川 3 一三  
 針布(しんぷ) 2 三  
 新聞 1 二六

錘(すい) 2 五  
 水産会社 1 四  
 スイス 4 一〇  
 水稻(すいとう) 3 四  
 周防灘(すおうなだ) 4 二二  
 スキー 4 二二  
 助郷(すけごう) 3 一〇  
 スコール 4 五  
 崇神(すじん)天皇 3 三  
 すそ野 3 三  
 隅田(すみだ)川 3 一  
 スルメイカ 1 四  
 諏訪(すわ)市 3 七  
 諏訪盆地 3 七

【セ】

生活共同組合 2 八  
 青銅(せいどう) 3 二  
 精紡機(せいぼうき) 2 五  
 関が原の役 3 五  
 関所(せきしょ) 3 一〇  
 赤道 1 五  
 瀬田川 4 一  
 石灰(せっかい) 4 一  
 石灰窒素(ちっそ) 3 三  
 石器時代 4 三  
 赤血球の沈降速度(せっけつそくど) 4 三  
 うのちんこうそくど 4 三  
 瀬戸内海 4 二  
 セーヌ 2 六  
 ゼムリヤンカ 4 七  
 全校合唱 2 八  
 戦國時代 3 元

戦災復興院(ふっこういん) 2  
仙台(せんたい) 3

【ソ】

操車場(そうしゃじょう) 2  
疎開(そかい) 1  
促成(そくせい)さいばい 1  
そこなだれ 4  
そこびき網 1  
そり 4

【タ】

大運送 2  
大学病院 2  
大使館 1  
隊商(たいしょう) 4  
ダイス 2  
大西浜 4  
大山(だいせん) 3  
台風 4  
太平洋 1

貯水池

地理調査所  
チンプクツ

【ツ】

筑紫(つくし)平野 3  
つけ物 4  
対馬(つしま)海流 3  
ツベルクリン反應(はんのう) 4  
積出港(つみだしこう) 3  
つれづれぐさ 4

【テ】

鉄器時代 3  
デッスーバレー 4  
鉄道局 2  
鉄道連絡船 4  
手取(てどり)川 3  
寺小屋 1  
田園都市 2

だいぼう網

タイムレコーダー

大陸低気圧

台湾

台湾海峡

田うえ

田うえ歌

高崎(たかさき)

高潮(たかしお)

高田地方

託児所(たくじしょ)

タクラマカンさばく

但馬(たじま)

谷風

種もみ

多摩(たま)川

玉川上水(たまがわじょうすい)

炭坑(たんこう)

炭鉱町

探照燈

天気予報

てんぐさ

てんさい

天正十一年

電信電話

傳染(でんせん)病

天然ガス

天満(てんま)川

天龍(てんりゅう)川

【ト】

ドイツ 2  
東海道五十三次 3  
東京 2  
島後(とうご) 3  
等高線図 3  
とうじ 4  
島前(とうぜん) 3

断層(だんそう) 3  
暖流(だんりゅう) 4

【チ】

筑豊(ちくほう)炭田 3  
千島海流 4  
治水事業 4  
チチハル 4  
築港(ちっこう) 4  
茅野(ちの) 3  
千葉縣 3  
茶つみ歌 1  
中央線 3  
中原(ちゅうげん) 4  
中國 1  
中世 4  
中禪寺湖(ちゅうぜんじこ) 2  
鳥かん図 3  
銚子(ちょうし) 3  
朝鮮(ちようせん) 4  
朝鮮海峡 4

東大(とうだい)寺

東北地方

東洋

十勝(とかち)平野

徳川家康

徳川幕府(ばくふ)

年の市

都市復興計画

図書委員

図書館

土藏(どぞう)造り

ドット式の分布図

鳥取(とっとり)縣

都道府縣

利根運河(とねうなが)

利根川

富岡(とみおか)

富山(とやま)縣

豊臣(とよとみ)氏

豊臣秀吉

トラクター

ドリヤン 3 元  
トルコ 4 元  
トロール 1 元  
十和田(とわだ)湖 3 元  
トンネル掘り 3 元  
問屋(とんや) 2 元

【九】

ナイル川 4 元  
ナイロン 1 元  
長崎縣 3 元  
中山道(なかせんどう) 3 元  
長野縣 1 元  
名古屋(なごや) 3 元  
中山道五十九次 3 元  
なだれ 4 元  
難波(なにわ)の津 3 元  
奈良(なら) 2 元  
奈良盆地 3 元

苗代(なわしろ) 1 元  
南極(なんきょく) 4 元  
南極捕鯨船(ぼげいせん) 2 元  
南極洋 1 元  
男体山(なんたいざん) 3 元  
南北朝時代 3 元  
南洋 4 元

【三】

新潟(にいがた)縣 4 元  
西陣織(にしじんおり) 3 元  
西宮(にしのみや) 3 元  
ニース 4 元  
日光 3 元  
日射(にっしゃ) 4 元  
日本海 3 元  
日本海流 4 元  
日本銀行 2 元  
日本歴史の時代わけ 3 元  
二百十日 4 元  
二百二十日 4 元  
日本橋 3 元

乳牛組合 1 元  
ニース 1 元  
ニューヨーク 3 元  
仁徳(にんとく)天皇 3 元

【ネ】

熱帯地方 4 元  
熱帯低氣圧 4 元  
根雪(ねゆき) 4 元  
年鑑(ねんかん) 2 元  
粘土(ねんど) 3 元  
燃料(ねんりょう) 2 元  
直方(のうがた) 3 元  
農業実行組合 1 元  
農業生活 3 元  
農村 3 元  
農はんとく兒所 1 元  
濃尾平野 3 元

【八】

能率(のうりつ) 4 元  
ハイキング 2 元  
肺結核(はいけつかく) 2 元  
バイソン 1 元  
バイナッブル 4 元  
ハイラル 4 元  
延繩(はえなわ) 1 元  
延繩捲揚機(まきあげき) 1 元  
バクテリア 3 元  
箱根(はこね) 3 元  
八王子(はちおうじ) 3 元  
八丈島(はちじょうじま) 1 元  
発電地帯 3 元  
発動機船 1 元  
早かご 3 元  
はやて 1 元  
バナナ 4 元  
ババヤ 4 元  
バラオ島 4 元  
バリ 1 元

【七】

播州赤穂(ばんしゅうあこう) 4 元  
阪神工業地帯 3 元  
パンの実 4 元  
BCG 2 元  
東インド諸島 4 元  
避寒地(ひかんち) 4 元  
飛脚 1 元  
ビート 3 元  
美唄(びばい)町 3 元  
氷室(ひむろ) 4 元  
百貨店 2 元  
ひょう 2 元  
肥料(ひりょう) 1 元  
ビルディング 3 元  
琵琶(びわ)湖 3 元  
品種改良 4 元  
ビンナガ 1 元

【フ】

風車 4 元  
風速 4 元  
フェーン 4 元  
福岡(ふくおか)縣 3 元  
福島縣 4 元  
ふくらし粉 1 元  
武家屋敷(ぶげやしき) 2 元  
富士火山帯 3 元  
富士川 3 元  
富士五湖 3 元  
富士山 3 元  
富士箱根國立公園 3 元  
富士宮 3 元  
伏見(ふしみ) 3 元  
部落会 1 元  
プラトン 2 元  
フランス 1 元  
文化 2 元  
分業 4 元

平安時代

ペーチカ  
ベニシリ  
ペルシア

4 2 4 4 3  
三 三 三 三 三

【ホ】

方位  
貿易(ぼうえき) 港  
貿易風  
澎湖(ぼうこ) 諸島  
防砂(ぼうさ) 林  
房州(ぼうしゅう)  
紡績(ぼうせき) 機械  
紡績工場  
放送局  
防霜(ぼうそう) 組合  
防潮(ぼうちよう) 林  
防波堤(ぼうはてい)

3 4 4 4 4 4 3 3 3  
三 四 四 四 四 四 三 三 三

防風林

北越雪譜(ほくえつせつぷ)  
捕鯨(ほげい)  
保健所(ほけんじょ)  
捕鯨船  
母船(ぼせん)  
北海道  
北極  
北極海  
北國  
ホップ  
ポトーダーウイン  
ポーランド  
ボルーゼムリヤンカ  
ボルトガル人  
本州  
本陣(ほんじん)

4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 3 1 1 2 1 4  
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

【マ】

マイクロフォン  
前橋(まえばし)  
牧(まき)の原  
モンテカルロ  
モンベ

3 3 1 4 4  
三 三 一 四 四

【ミ】

茨田堤(まんだのつつみ)  
満州  
マンゴスチン  
マンゴー  
丸の内  
マルコッポローロ  
丸木船  
マヨネーズ  
マッサワ  
マクレー  
牧畑(まきはた)

3 4 1 4 4 3 3 1 1 4 4 3  
三 四 一 四 四 三 三 一 一 四 四 三

【ム】

武藏野(むさしの)  
武蔵野台地  
三池(みいけ) 炭田  
三島(みしま)  
南アメリカ  
南回帰線  
民謡(みんよう)

3 4 4 4 3 3 4 4  
三 四 四 四 三 三 四 四

無線電信  
無線電話機  
むろ

室町時代

【メ】

明治  
明治維新(いしん)  
明治時代  
明暦三年  
メキシコ湾流  
メバチ  
免疫性(めんえきせい)

4 3 4 1 1 1  
四 三 三 一 一 一

【ヤ】

屋敷林(やしきりん)  
矢作(やはぎ) 川  
山風  
山形(やまがた) 縣  
山つなみ  
大和川(やまとがわ)  
山梨(やまなし) 縣  
山の手  
ヤリイカ

4 4 4 4 4 4 4 4 4 3 3 2 1 1  
四 四 四 四 四 四 四 四 四 三 三 二 一 一

【ユ】

養蚕(ようさん)  
横浜  
吉田兼好(けんこう)  
寄席(よせ)  
四ツ手網  
淀川(よどがわ)  
夜見浜(よみがはま)  
ヨーロッパ  
雪  
雪おろし  
雪がこい  
雪菜(な)  
油田  
弓

1 3 4 4 4 4 4 4 1 3 3 4 3 3 4 1  
一 三 四 四 四 四 四 四 一 三 三 四 三 三 四 一

模型(もけい) 図  
門司(もじ)  
モツ  
物日

桃山(ももやま)時代

3 1 1 4 3 3  
三 一 一 四 三 三

【ユ】

友禪染(ゆうぜんぞめ)  
夕張(ゆうばり) 山脈  
夕張町  
郵便(ゆうびん)  
遊牧  
友禪染(ゆうぜんぞめ)  
夕張(ゆうばり) 山脈  
夕張町  
郵便(ゆうびん)  
遊牧

4 1 3 3 3  
四 一 三 三 三

【ラ】

ラウドスピーカー

1 一  
一 二

私たちの生活 (二)  
 都会の人たち 第五学年用  
 Approved by Ministry of Education  
 (Date Mar. 11. 1948)

昭和二十三年三月十一日 翻刻印刷  
 昭和二十三年三月二十五日 翻刻発行  
 (昭和二十三年三月十一日 文部省検査済)

著作権所有 著作兼発行者 文 部 省  
 兼印刷者 東京 書籍 株式会社  
 代表者 長 得 一

印刷所 東京都北区堀船町一丁目八五七番地 東京 書籍 株式会社  
 発行所 東京都北区堀船町一丁目八五七番地 東京 書籍 株式会社

ラジオ	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4
列島	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4
レニングレード	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4
レントゲン	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4
レッチオース	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4
六・三・三制	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4
ロシア人	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4
ロシア	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4
ロシタリ	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4
露天(ろてん)掘り	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4
ローベルト・コッホ	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4
ローマ字	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4
ローム層	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4
ロンドン	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4
若松(わかまつ)	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4
脇本陣(わきほんじん)	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4
和田峠(とうげ)	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4
わらぐつ	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4
陸稲(りくとう)	3	4	3	4	3	4	3	4	3	4
陸風	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
利子(りし)	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4
硫安(りゅうあん)	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4
両親と先生の会	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4
緑地帯(りょくちたい)	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4
リンカン傳(でん)	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4
冷蔵	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
冷蔵庫(れいぞうこ)	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4
冷凍(れいとう)会社	3	4	3	4	3	4	3	4	3	4
冷房装置(れいぼうそうち)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4



